愛國婦人會機關

愛國婦人

毎月十日廿五日發行

（定價）一枚參錢五厘 一ヶ月分七錢 三ヶ月貳拾壹錢 半年分四拾貳錢 壹ヶ年分八拾四錢 金圓無遞送料郵券代用（壹錢又は五厘切手）一割增
廣告料五號活字一行四拾錢

發行所 東京市麴町區下二番町三十七番地 大日本女學會內 愛國婦人發行所
發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 手島益雄

電話番町壹千三百三十番

社說

眞似といふことに就いて（承前）

人は教育を施すに適する性質を具へて居る。それが禽獸に優れて萬物に靈たる所以である、即ち人は幼き時より物事を覺えやうといふ心を有ッて居るものであるから、其幼き腦力で解し得られる事て、且つ其幼き腦力に堪へ得られるだけの分量ならば、喜んで敎を受くるものである。啻に敎を受くるのみならず、自ら進んで人の眞似をして覺えるものである。小兒が言語を使用し得るやうになるのは、其多くは自分が接する人々の言語を眞似て、何時の間にか覺えたのである。時としては稍むづかしい言語を眞似得て大に愉快を感じ、其言語を幾度も繰返して唱へることさへある。是等の事は小兒を養育した人々の皆實驗せられ居ることであらう。

好んで眞似をするといふことが、即ち教育を施すに適した性質であッて、眞似といふことは極めて大切なことである。小兒を養育する婦人方は、此點について最も周密なる注意が必要である。小兒の眞似をするのは、固より無分別無邪氣であるから、善い事でも惡い事でも、見解はない、故に小兒に接する者は惡しき習癖を眞似させざるやう、大に愼まなければならぬ。

子女が稍成長して辨別がつく樣になッたならば、益々之を奬勵して、善き眞似に勉めしむると同時に、惡しき眞似に陷らざる樣に誡めざるべからず、殊に女子の最も陷り易き、身分不相應の眞似を避けざるべからず、即ち收入の少ない者が、金持の眞似をしたり、身分の輕い者が、貴人の眞似をしたりすることが澤山にある。例へば身分の輕い者でありながら、貴婦人令孃の眞似をして、貴婦人卷とか、おちごまげとかに結んで居る者がある、中には頭髮だけ眞似をしながら衣服は眞似がしきれないて、粗服を纏うて居る者さへある。誠に不釣合な形である。元來衣服道樂といふことは、多くの婦人に免かれがたい事であるが、身形ばかり如何に立派に眞似が出來ても、其言行に於て善い眞似が出來なかッたならば、人中に於て却ッて大に耻をかく事があらうと思ふ。

さて、眞似の高尚なる者に至ッては、啻に先輩を眞似るばかりでなく、自ら種々に工夫を凝して、行末は先輩よりも一段優ッた者にならうといふ理想がなくてはならぬ。所謂藍より出て、藍よりも青くなるといふ理想がなくてはならぬ。支那人は古聖賢に則り單に其眞似ばかりして居るので、何時までも進歩しない。日本人は其昔支那人や朝鮮人を先生として眞似たのであるが、近世に至り智識を世界に求めて、盛んに眞似を努めたので、今日では先生よりも大層偉くなり、却ッて近頃は、支那や朝鮮から日本人を先生に聘したり、留學生を越したりして、日本の眞似をする樣になッたのである。（完）

演說

英國の家庭教育（其五）

評議員 下田歌子女史演說

其次に今一つ養ふところのものは愛國心でこれ亦えらいものです。是は英國の話ではなく亞米利加の話で、私の知つて居る少壯の方から聞いたことですが、極く摘んでお話すると、其のかたの居た家に、大變に可愛い十二三歲の女の子があッて、其かたを兄さんのやうに慕つて、其かたも亦可愛いから餘程其娘さんを可愛がつて居つた。或時晩餐の食卓に着いて居る時に、母親が、若し日本と亞米利加と戰さをせぬければならぬ時には、此方をお前はどうするか、戰さになつて、若し敵の方から此方が亞米利加を攻めに參られた時にはどうしますかと尋ねた。娘は困りました、どうしたら宜いだらう、外の敵なら鐵砲を持つて行つて擊つて仕舞ひます、といふてすけれ共、自分の兄見たやうに思つて居る人を擊ちたく無い。そこで娘は困つて伏向いて涙を含んで居つた、さうしたら、母親のにこやかな顏が儼然となつて、お前は愛國心のことを忘れましたか、國の爲には親戚を居り、朋友を屠らねばならぬては無いかと言つた。さうしたら娘が暫く考へて、敵になつたら擊ちますと言つてさうして母親の耳端に口を寄せて、けれ共御母さん、あなたは始終仰しやるてせう、亞米利加は餘處の國を攻めて取りませぬ、それは國是です、だから日本と亞米利加と喧嘩することは無いてせう、ねえ、無いてせうと言つて心配して問ふた。母親は無論無いてせうけれ共、あつた時には國の爲には敢て親友も屠らなければならぬと言つた。私はこれを聞いて實に寒くなりましたと言ふ話ですが、さう云ふことは始終あります。即ち個人として非常に親切な交際を外國人にすることを小供に敎へて置いて、一方に國といふことに付ては、非常に強い觀念を持たせて居る。是も亦小供を繈褓の中に母親が抱き擁えて居る時から、其子の胸中に敎へ込みます。要するに私が、家庭は寛に失するより嚴に失したいと言つたのは、どうも今の日本の家庭は弛んだと思ふです、弛んだとすれば之を立派な方へ向けるのには、嚴に失する方が寧ろ宜いと言ひたいと思ふのです。けれ共外國の家庭の有樣を見ると、みんなさうとは言はぬけれ共、多少家庭を好くやつてお出でなさると言はれる人は、誠に寛嚴宜しきを得て、愛すべき時には十分に滿腹の愛を以て愛しながら、チヨツトでも小供が惡事と名の付く事をした時には、母親は非常に強くなるのです。此間日本のかたですが、私の心易い奧さんが、かう云ふ話をいたしました。私に向つて、先生は始終外國の家庭はナカ〳〵嚴肅であつて、小供を敎へるのに綱を弛めないといふことを仰しやつたが、私は實に感心したことがある。或公使の書記官の奧さんが學者で、家庭が良いといふことであるから、私は時々わざ〳〵行つて話をする。さうして其お子さんが、如何にも幼い中から聞分が宜い、母親の命令を非常にお守りなさるが、私は嚴重にして居るけれ共、家の小供はさう行かぬ。どう云ふものかと思つて聞いて見ると、其母親が言はれるのに、小供の躾けはモウ二歲以上はいけませぬ、二歲以下でして仕舞はねばならぬ。御覽なさい三歲から以上の者は、事に依ると覺えて居る、マア記憶に存するには五つ以上てあるから、二つから以下は他の動物と同じやうなものです。併し自分の產んだ子といふところで可愛い、それは猫でも犬でも、自分の育てた小供は可愛く無いとは無い。併し二つ位の小供には、本當に人間のやうな感じはありませぬ、其中に正義といふものは宿して仕舞はねばならぬ。小供の爲には氣の毒と言へば氣の毒だが、氣の毒なことは無いのです。

評議員 色部ゐる子筆

深山瀧

理事公爵夫人 近衞貞子
しらくものつねにおりゐるおく山の
たきはおとのみきこえけるかな

同 理事侯爵夫人 鍋島榮子
とし〳〵に道もひらけて山かけに
くる人おほきみねのおほたき

同 評議員侯爵夫人 蜂須賀隨子
山たかみをくらくみえし木のまより
たえ〳〵みゆるたきのしら絲

同 評議員侯爵母堂 前田朗子
夏もなほ衣手さむしおく山の
くもよりおつる峯のおほたき

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

寄書

◎海軍茶話（五）

海軍大尉　長尾耕作

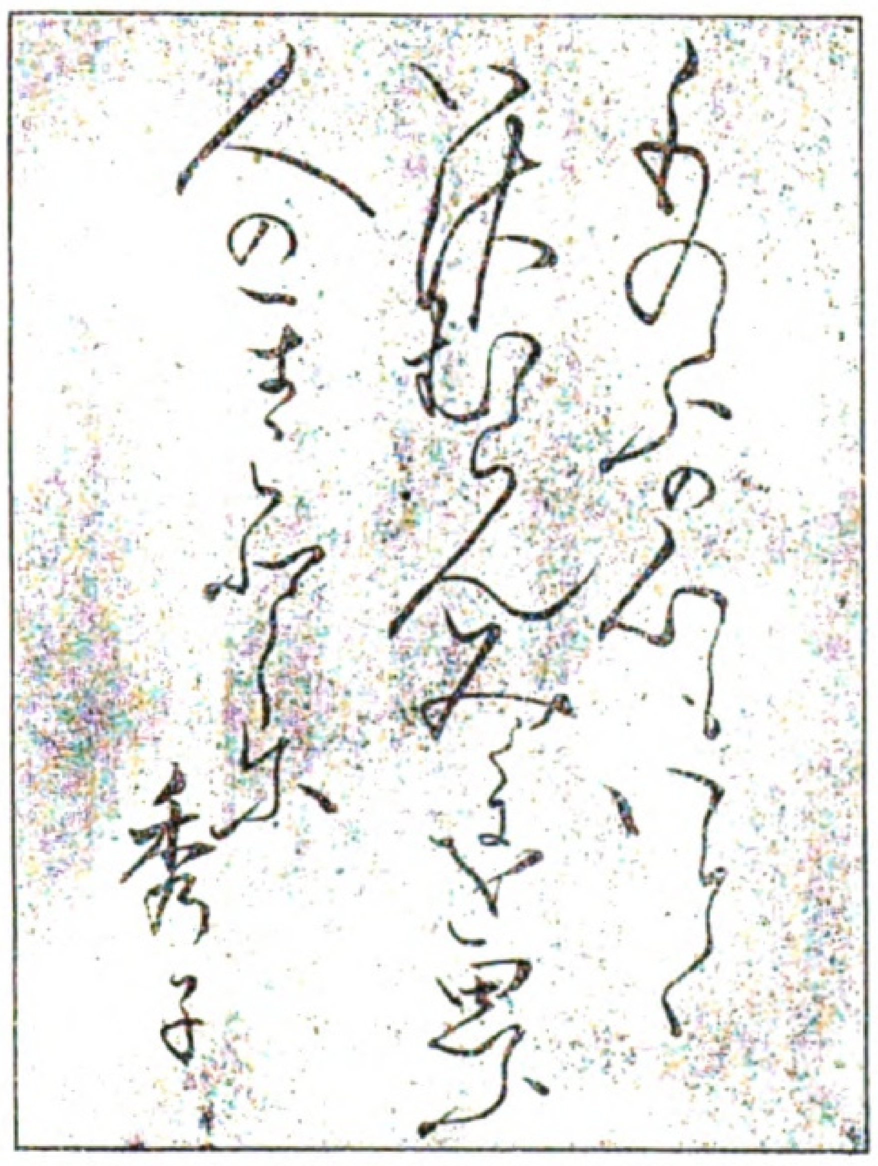
○米飯が喰ひたさに他人を脅迫して、罪人となつた水兵がある。其所爲は憎む可きも、其心は憫然である。海軍は久き前、脚氣病者が續々出來た事があつて、其節から一時麥飯を用ゐるの制となつたが、糧食條例に改正があつて、丁度明治二十七八年の比には、麵包と米飯を用ゐてあつた。然るに水兵共は何故か米を食ひたがり、米飯の分量の多きを望む事が甚しかつた。恰も明治二十七年我聯合艦隊が、長直路に居つた頃、米飯の量に制限を加へられた。思ふに之は衛生上の注意で、當時一水兵とても餘剩の無い時節ゆゑ、殊に食物に注意した結果であらう、處が余の乘組んだ軍艦の水兵某は、淺墓にも妙な考へを起した、米飯を食はせないのは、軍醫長と主計長の故障からである、其處で此二人を脅迫すれば、艦隊の達は表向き如何でも、艦内で適宜に其量が增されるとの誤解をした結果、一種の脅迫狀を書いて、此二人の寢室に投げ入れてあつた。二人は此脅迫狀を見て驚いたのは、暗殺をする樣な文句があつたので、默する譯に行かないから、之を表向きにした。犯人は直ぐに目附かつた、軍法會議に送られた、其極は知らぬが無論罪を構成してをるから、禁錮になつたらう。無智の極に出たとは云へ、米飯が食ひたさとは、憐むべき次第である、此水兵が斯んな馬鹿氣た眞似を行はなければ、其後十日程經て行はれた、黄海の戰に與かる事が出來たのに。之れと能く匹敵した話であるが、第二軍が淸國花園口に上陸した時に、海軍から加勢を出した。記者は端舟と小蒸汽を指揮して、運送船に派遣され、專ら陸揚の事を行つた。此時一人の下士は滿面痘痕で、身躰は頑固な一見强そうな、然し溫順の人物であつたが、米飯が何より好物で、毎日〱運送船の賄所から、米飯と香の物などを貰ひ、隙さへあると食うてをつた。三度の食事毎に殆ど一升も平げる元氣であつたが、軈て陸揚も終り歸艦し、間も無く便秘の爲に死亡した、まさか米飯の過食からでもあるまいが、當時記者はさう考へたのである。

○豚の腸汁　明治二十七年十一月大連灣の占領前、我海軍は長山列島の附近に居つた。當時第二軍は大連の方に進行中であつたが、我艦隊は同所で天長節を迎ふる事となつた。當時記者は其乘組軍艦の士官糧食掛りの一人であつたので、明日の天長節の献立は新鮮の肉を用ゐんと、前日陸上へ徵發に行つた。支那人の家に就いて、雞や、豚を購ひ、其中の若干は先きに本艦へ送つて、其日の晩食には豚の羹汁を用意せよと主厨に命じた彼所此所と所々を尋ねて、餘程糧食を求め、本艦に歸つたのは點燈の頃であつた、記者は夕食を取らんと食卓に着いた、食卓上には白布が敷かれ、其上には命じ置いた豚の羹汁が甘さうに並べられた、他の士官は已に食事も終り、面白さうに談話してをる。記者等徵發隊の一行三人が、今や羹を啜らんとした時、滑稽家の某少尉は眞面目に語つた、諸君本日の御苦勞は我々感謝する所である、又本日の晩食用として送られた豚の爲、久く渴望した鮮肉を食するを得て、無上の珍味であつたが、しかし本日の如き羹汁は到底再び之を口にする事は出來ないと、語り終つて衆を顧みた、他の既に食を終つた人達は一同大笑し、給仕の從卒も亦微笑した、某少尉は記者等に向ひ、早く遣つ付けたまへと勸めるので、一口啜ると、こは如何に、惡臭紛々、直に吐き出さゞるを得なかつた、之は餘りの混雜に取紛れて、厨夫奴が腸を間違へて汁に入れたので、厨夫も恐る〱前へ來て、其粗忽を謝した事があつた。（嗣出）

○燕の巣を見て愛國婦人會に及ぶ（承前）

大分縣支部幹事　後藤よね子

夫れ兵は國家の柱石なり、現時國家として一日も兵なかるべからざるは言はずもかな。外は寇讎の侮を禦ぎ、内奸惡の亂を鎭むるは、軍人ならでは誰の力ぞや。彼の世界に於て强國と云ひ弱國と云ふ、多くは兵力の强盛を標準として言ひし名稱なる如し、英・佛・獨・露然らざるはなし、近來我國世界强國の範圍内に入り、日英同盟の擧ありしも、遠く日淸事件に於て、近く北淸の野に於て、我軍隊の如何に勇武に、世界列强環視の前にて花々しき働ありしに因らずんばあらず。就中我國軍隊の他國に比して優るへきは、義に勇み軍紀軍律を秋毫も犯さず、二千五百年來鍛ひに鍛ひし、大和魂の煥發せる所なり、敷島の大和心を人問はゝ朝日に匂ふ山櫻花とは、よくも此の義魂を言ひあらはされたる事ならずや。畏くも明治五年の御勅諭中、軍人は忠節を盡すを本分とすべし、軍人は武勇を尙ぶべしとの二ヶ條を、常に拳々服膺せる結果に外ならず。我軍人はかくあらばこそ、一旦事變に際會し、出戰の命を受くるや、家をも身をも打忘れ、堂々五尺の身躰も唯君を思ふ熱誠の塊



評議員　子爵夫人小笠原秀子筆

と也、劍山湯池を顧みず、死を見ると歸する如く、進んで君命の爲に屍を馬革に包み、背を敵に示すてふ卑法未練の行爲なきは、近來我軍隊歷史上に明に示されつゝあり。我軍隊の勇は決して暴虎憑河の勇にあらず、眞の沈勇なり、我軍隊此の如し、故に我々國民は枕を高くするを得るなれ、我軍人は此の如し、故に朝廷に於かせられても、特に軍人優待法を設けられ、敍勳條例・昇級條例・扶助條例・恩給令等あり、尙又赤十字社等の設けあり、後顧の憂なき樣せられたり。併しながら數多き軍人家族の中、或は困苦の狀態に陷り居るものなしとは斷言し難し。嗚呼千軍萬馬の中を馳驅し、流丸雨注の下をくゞり、幸に身に傷を帶ひず、凱旋の曉には國民歡呼の内に迎へられ、上朝廷より赫燿たる勳章を賜はりし軍人の意氣は、果して如何。之に反し一發の敵彈は不幸にも胸を貫き、殘念の呼聲を此世の名殘に、敵を睨んで名譽の戰死を遂げたる者は果して如何。靈は九段坂上に於て春秋二期鄭重なる祭を受くるも、家に殘りし妻女の心中果して如何、口には我夫は御國の爲名譽の戰死を遂け、聊か國家の御恩報じをなしたるとは言へど、裏面の心中を察すれば、誰れか一掬の淚なからんや。敵地に深く踏み入り、深夜人定まりたる後、既往を考へ將來を思ふ軍人は、よしや熱誠の凝れる軍人にせよ、望鄕の念起らずとせんや。夫を失ひし妻女、家には老母あり、腕白盛りの子供と、乳房を含む乳くさき口とは、母の膝下と胸のあたりに取り纒ひ、かてゝ加へて資産裕ならざるに於ては、恰もわらはの家に於ける燕と異なるなけん。わらははわらはの家の燕を見、此等軍人遺族に推及し、感慨百出禁ずる能はざりき。然るに奥村刀自の主唱にて、博愛慈善の精神より、上は貴婦人方の斡旋により、茲に愛國婦人會なるもの設立ありしは、こよなき我國婦人の慈善的事業と謂はざる可らず、會の主意書にある如く、半襟一つを節減して云々とあれども、わらはは半襟は二つも三つも儉約しても、猶て此の會に入り、軍人遺族へ同情を表し、幾分たりとも國家の爲に盡されたる忠魂を慰めざる可らざる事と思ひ、わらはも會員の末班に加はり、頃日愛國婦人を讀み、不圖軒端にかゝる燕の巢を見、小さき胸に種々の感じ起りしかば、筆のまに〱書き記しぬ。（完）

喜　雲の上に玉のをのこ御子あれますと聞しにまさる喜びそなき　靜岡　長谷川きよ子

同　よろこびの聲そ國中にあふれける皇子あれませる大御榮に　三重　長谷部和子

同　いたつきのいえて我か家にかへります母なむかふるけふの嬉しさ　新潟　前崎てる子

怒　おのか子の過せむるその親のいかりや深きなさけなるらん　岡山　稻葉八千代子

同　忍はれぬいかりなりとも露の間なしのはゝやかて忘れはてまし　埼玉　中川よれ子

同　いさゝかの事にかとたていかりてはあとに悔むそわかおろかなる　愛知　鳥居いし子

哀　やしなはん子やなかるらんつゝれ着て物乞ふおきな哀れやせたる　東京　河面こま子

同　たとへんに物なきまてに哀しきは乳乞ふ夜はの孤兒のこゑ　群馬　須藤たい子

同　なのこ子に生れさりける悲しさに親にものをは思はする哉　大分　高山益代子

樂　いつしかとわが待つふみの届くべき日の近づくそたのしかりける　神奈川　内田禮子

同　夏やすみ近づくまゝにはらからのかへりこん日そ樂しかりける　長崎　楠本てい子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人傳

倭姫命

評議員　下田歌子

倭姫命は、垂仁天皇の皇女にして、御母は、皇后日葉酢姫なり。始め、天照太神を、宮中に齋き祭らせ給ひて、御鏡・御劔は、そが中に鎮め置かせ給ひしを、斯く、神と人と、次第に遠ざかりもて行く、世の末に、尙、馴れ近づき奉らんとは、いとも畏しと思させ給ひにしかば、遂に、神璽を、大和國笠縫の邑に分ち崇めさせ給ひ、豊鍬入姫命をして、奉祀せしめ給ひき。然るに、姫命、やう〳〵御齡つもらせ給ひ、辭任の御願ひもや深かりけん。垂仁の帝、遂に皇女倭姫命におほせて、豊鍬入姫命に代らせ給ひぬ。さても、倭姫命は、御心ざま雄々しく將た萬づに至り深き御方にて渡らせ在しましゝかば、この、太神の鎮座は、然るべからずと覺召し、御自ら、さるべき處をと求めさせ給ひて、近江より美濃に出で、更に伊勢の國に入り給ひし程、命の御夢に、太神のあらはれ給ひて、是の國こそ然るべう思ふなれ、とのこゝろを託宣し給ひしにより、命は直ちに還り奏して、伊勢の國五十鈴の川上に、神宮を齋き祭らせ給ふ事とはなれりし也。

斯くて、景行天皇の四十年十月、御姪日本武尊、東國の夷を征せんとて、先づ、伊勢の神宮に詣でゝ、武運を祈り、御姨、倭姫命に遇ひて、宣ひつらんやうは、姨君にも知らせ給ふやうに、東夷しば〳〵叛きて、度々貢民を悩まし、常に震襟を痛め申すこと、いとも畏し。己れ此度、征東の勅を受けて、下向し侍ること、若し、彼れ醜類を殲しにせずんば、生きて、再び姨君にまみえ奉るまじう思ゆれば、おはれ、姨君にも、太神に祈り申して、この御軍勝たせ給へかし。と宣はせたりければ、倭姫命つく〴〵と打ち聞かせ給ひて、左もや答へ給ひつらん。げに、宣ふことこそ、理りに覺え侍れ。此度の東征、最も大事の御軍なるべし。いでや、己れも、丹精をぬきんでゝ、太神の加護を祈りまゐらすべきは、言ふも更なるとぞかし。よしさらば、己れ、今御身が爲に、天の叢雲の御劔を借し與へん。こは、申すまでも無く、三種の神器の一つにして、苟且ならぬ御物にはあれど、斯かる大事の御軍率ゐ給ふ御身には、太神のかたしろ添はせ給はでは、かなふまじ。いで〳〵と宣ひて、つと身を起して、内陣に入らせ給ひしが、やゝありて、恭々しく、神劔を捧げ持ちて、立ち出で給ひ、尊に渡し給ひければ、尊の御悦びは譬ふるにものなく、忻喜雀躍勇みに勇みてぞ、御姨と袂を分ち給ひける。まことに、左も在しけん事の、理りにこそは覺えたりけれ。果たして、日本武尊は駿河の賊に燒き打ちせられ給ひし時も、此神劔の助けによりて、反對に賊を打ち退け給ひしなりけり。斯くて、東夷御征服ありて、都へ還り登らんとせられける折、俘虜は伊勢にとゞめて、神宮に奉らせ給ひき。さて後、倭姫命は、東夷の、禮節に馴れず。踈野卑猥にして、物騒しくまさなかりければ、竊に奏して、夷は、神に近づけ奉るまじ。いと忝なくこそあれ。と言はせ給ひ、遂に、彼れらをして、こと〴〵く、御諸山にぞ徙し給ひたりける。

總じて、此頃の女子は、心雄々しく、萬づ物さわやかに、取りしたゝむる風ありけるは、是れ、後世の如く、女子を抑ふること、こよ無く成りはてにたらぬが故にぞあるべき。されば倭姫命、九重の雲深き窓にひとゝならせ給へる御身を以て、皇祖の御神の爲に、其鎮座を求めて、いと便りあしかりける、古への旅寐を重ね、近江・美濃・伊勢等の國々を經て、遂に、萬世不易の鎮座を見出て、定め給へる。又、御姪日本武尊、東征の日、其大任をおぼし遣りて忽せならぬ御預りの神劔を取り出でゝ、授け給へる、大膽果斷の御ふるまひ、到底後世の女子が企て及ぶまじき御行ひにこそ在しましけれ。斯くて、尊凱旋の折、伴なひ還りて、神に捧げ給へる俘虜の、踈く卑しき行爲を見て、神威を穢させまじとの御遠慮も、すべて其中を得、道にかなひたる御趣け、いとも最貴く、いともあらまほしくこそありけれ。實に、御姨の御勵ましによりてこそ、尊も、いよゝ賴もしく思し召して、比類無き御勳功をも立てさせ給ひけめとぞおしはからるる。あはれ、我が國の女子達、其いにしへの賢く猛き御媛の、世に優れたる御蹟を慕ひ仰ぎて、ます〳〵善き道に進みもて行きつゝ、高光る我が天皇の大御稜威を畳らせまつる事無く、いよゝ大日本の國の光添へまつらんことを希ふべし。物のさとり開け、事のさまめでたくのみ成り增る御世に生れながら、萬づ、むかしにも劣り果てたらましかば、貴なる泉のもとなる、先輩達に、そも如何にして、面てをむくべき。かへす〳〵も、心に心して、能く務め能く勵まん事をこそ望ましけれ。

（完）

童話

魚の遊戲

月酒舍かつら

或處の港で、章魚と鰈と鯑とが出會まして、仲よく遊んで居りましたが、章魚は其處に船が泊って居るのを見つけて、云ひますには、

（章魚）此船には今、船人が用たしに陸へ上つて、誰も居ないから、なんと、皆船の中へ這入て遊ばうではないか。

（鰈、鯑）それは面白からう。

と賛成して、連立て船の中へ這入りました。

（章魚）何をして遊ばうか。

（鰈）なんと、皆が一藝づゝ隠藝を演て見やうぢやないか。

（鯑、章魚）それは宜からう。先づ云ひ出した魚から始めなさい。

（鰈）イヤ、抽籤にしやう。

（章魚）それなら私が籤を出すから、一寸お待ち。

と、章魚は後へ向きましたが、やがて向き直り、自分の足を三本だけ、根本の處を頭で隠しながら、ズッと前へ投出しまして、

（章魚）サア一本づゝ抽きなさい。殘りが私の。

（鯑）此抽籤は如何して順番が分るのですか。

（章魚）足の根本が繋されて括ッてある。一つ括ッてあるのが一番、二つが二番、括ッてないのが三番ぢや。サア抽きなさい。

（鰈鯑）合點ぢや。南無龍宮の乙姫樣、よい籤が當るやうに願ひますと、禱りながら、鰈と鯑とは、章魚の足の尖頭を一本づゝ銜へましたから、章魚が頭を擡げて見ますと、一つ括ッたのを鰈が銜へて居り、二つ括ッた分は殘ッて居りました。

（章魚）ヤ、殘り物に福わりか。一番に演らう。

と帆柱の根本から、足を吸付けては昇り、吸付けては昇り、ズッと尖頭の滑車の上まで昇り詰めて、

（章魚）是れからいよ〳〵藝道に取りかゝる。下からズドーンと大きな聲を擧げて下さい。

（鰈鯑）ズドーン

と叫びながら上を見ますと、章魚は「パチ〳〵パチ」と云ひながら、滑車の頭へ自分の頭を載せ、八本の足を八方へ擴げて、伸びるだけ伸ばして居りまして、

（章魚）如何だ、巧いだらう。花火が上ッた處だ。

（鯑、鰈）玉屋―鍵屋―

やがて、章魚は降りて來まして、

（章魚）サアお次の番だ。

（鰈）それでは一つ演らう。

と鰈も亦帆柱に取付いて、一間許昇り、上から垂れて居る帆綱の端を銜へてぶら下りました。

（章魚）それは何の眞似ぢや。

ときゝましても、鰈は帆綱を銜へて居るから、口をきくと落るので、默ッて唯ぶら〳〵して居ます。

（鯑）ハ、ア、煙草屋の看板だらう。

（章魚）成程、これはうまい。

（鯑）今度は私の番か。

と云ひながら鯑はザンブと海中へ飛込みました。

（章魚）オイ〳〵、お前は藝をしないで逃げてしまッてはいけないぜ。

と云ッて居ります中にゴッーンと船の底で大きな音がして、船が搖れました。

（章魚）ハ、ア、魚形水雷といふ藝道かナ。

（鰈）成程、これは面白い、感心々々。

と頻りに褒めながら、海を覗き込んで居りますと、鯑は腹を返して浮き上りました。

（章魚、鰈）ヤ、鯑が如何かした。

と直に海へ飛び込んで、介抱に出かけて見ますと、鯑は今、力一杯船へ衝き中ッたので、酷く鼻を傷めて苦んで居ります。その後、鯑は長わづらひをして、翌年の春まで遊びに來るとが出來ませんでしたとさ。

遊ぶにも能く氣をつけて、危險い遊戲をせぬとてす。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

寄書

◎海軍茶話(五)

海軍大尉　長尾耕作

○米飯が喰ひたさに他人を脅迫して、罪人となつた水兵がある。其所爲は憎む可きも、其心は憫然である。海軍は久しき前、脚氣病者が續々出來た事があつて、其節から一時麥飯を用ゐるの制となつたが、糧食條例に改正があつて、丁度明治二十七八年の比には、麵包と米飯を用ゐてあつた。然るに水兵共は何故か米を食ひたがり、米飯の分量の多きを望む事が甚しかつた。恰も明治二十七年我聯合艦隊が、長直路に居つた頃、米飯の量に制限を加へられた。思ふに之は衛生上の注意て、當時一水兵とても餘剩の無い時節ゆゑ、殊に食物に注意した結果であらう、處が余の乘組んだ軍艦の水兵某は、健啖にも妙な考へを起した、米飯を食はせないのは、軍醫長と主計長の故障からてある、其處で此二人を脅迫すれば、艦隊の達は表向き如何でも、艦内で適宜に其量が增されるとの誤解をした結果一種の脅迫狀を書いて、此二人の寢室に投げ入れてあつた。二人は此脅迫狀を見て、驚いたのは、暗殺をする樣な文句があつたので、默する譯に行かないから、之を表向きにした。犯人は直ぐに目附かつた、軍法會議に送られた、其極は知らぬが無論罪を構成してをるから、禁錮になつたらう。無智の極に出たとは云へ、米飯が食ひたさとは、憐むべき次第である、此水兵が斯んな馬鹿氣た眞似を行はなければ、其後十日程經て行はれた、黄海の戰に與かる事が出來たのに。

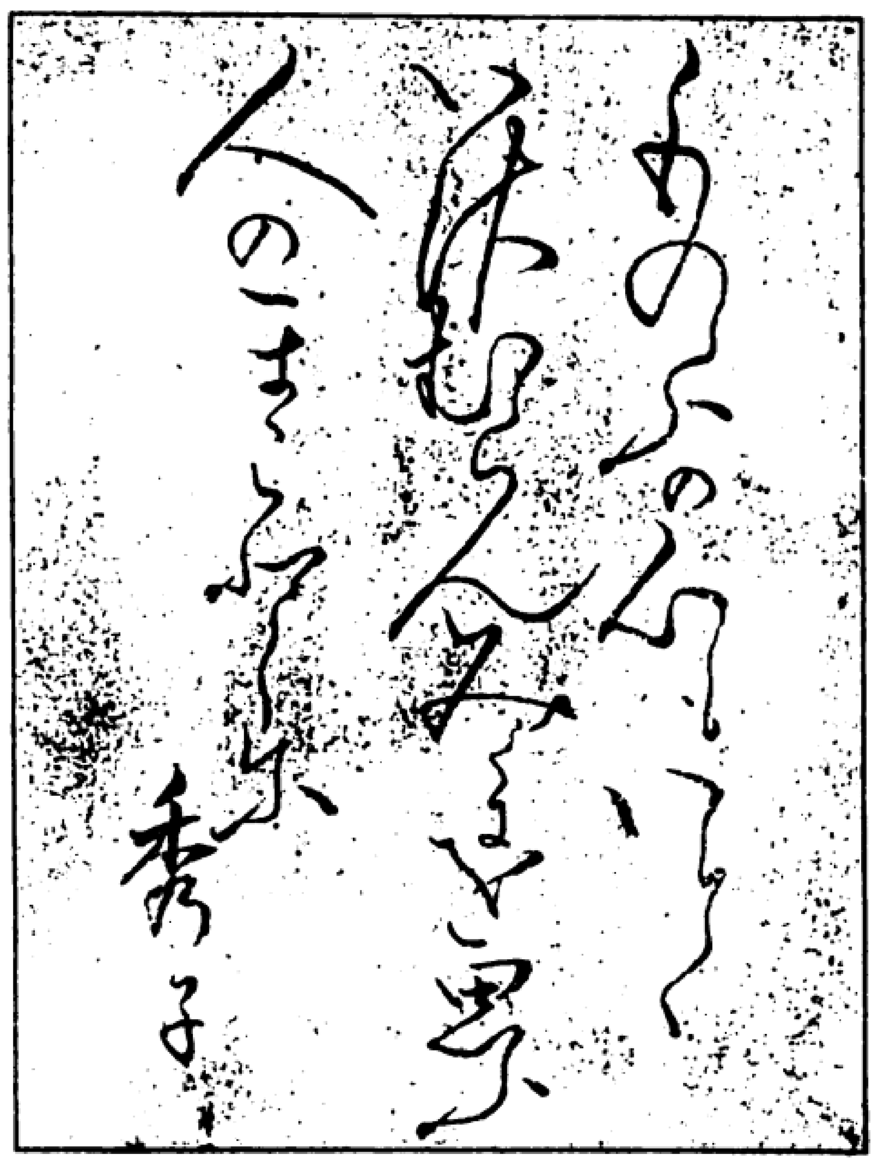
之れと能く匹敵した話であるが、第二軍が清國花園口に上陸した時に、海軍から加勢を出した。記者は端舟と小蒸汽を指揮して、運送船に派遣され、専ら陸揚の事を行つた。此時一人の下士は滿面痘痕て、身躰は頑固な一見强さうな、然し温順の人物であつたが、米飯が何より好物て、毎日〱運送船の賄所から、米飯と香の物などを貰ひ、隙さへあると食うてをつた。三度の食事毎に殆ど一升も平げる元氣であつたが、軈て陸揚も終り歸艦し、間も無く便秘の爲に死亡した、まさか米飯の過食からでもあるまいが、當時記者はさう考へたのである。

○豚の膓汁　明治二十七年十一月大連灣の占領前、我海軍は長山列島の附近に居つた。當時第二軍は大連の方に進行中であつたが、我艦隊は同所で天長節を迎ふる事となつた。當時記者は其乘組軍艦の士官糧食掛りの一人であつたので、明日の天長節の獻立は新鮮の肉を用ゐんと、前日陸上へ徵發に行つた。支那人の家に就いて、雞や、豚を購ひ、其中の若干は先きに本艦へ送つて、其日の晩食には豚の羹汁を用意せよと主厨に命じた彼所此所と所々を尋ねて、餘程糧食を求め、本艦に歸つたのは點燈の頃であつた、記者は夕食を取らんと食卓に着いた、食卓上には白布が敷かれ、其上には命じ置いた豚の羹汁が甘さうに並べられた、他の士官は已に食事も終り、面白さうに談話してをる。記者等徵發隊の一行三人が、今や羹を啜らんとした時、滑稽家の某少尉は眞面目に語つた、諸君本日の御苦勞は我々感謝する所である、又本日の晩食用として送られた豚の爲、久く渴望した鮮肉を食するを得て、無上の珍味てあつたが、しかし本日の如き羹汁は到底再び之を口にする事は出來ないと、語り終つて衆を顧みた、他の既に食を終つた人達は一同大笑し、給仕の從卒も亦微笑した、某少尉は記者等に向ひ、早く遣つ付けたまへと勸めるので、一口啜ると、こは如何に、惡臭紛々、直に吐き出さゝるを得なかつた、之は餘りの混雜に取紛れて、厨夫奴が膓を間違へて汁に入れたので、厨夫も恐る〱前へ來て、其粗忽を謝した事があつた。(嗣出)

○燕の巣を見て愛國婦人會に及ぶ(承前)

大分縣支部幹事　後藤よね子

夫れ兵は國家の柱石なり、現時國家として一日も兵なかるべからざるは言はずもかな。外は寇讎の侮を禦ぎ、内は奸惡の亂を鎭むるは、軍人ならでは誰の力ぞや。彼の世界に於て强國と云ひ弱國と云ふ、多くは兵力の强盛を標準として言ひし名稱なる如し、英・佛・獨・露然らざるはなし、近來我國世界强國の範圍内に入り、日英同盟の擧ありしも、遠く日清事件に於て、近く北淸の野に於て、我軍隊の如何に勇武に、世界列强環視の前にて花々しき働ありしに因らずんはあらず。就中我國軍隊の他國に比して優るへきは、義に勇み軍紀軍律を秋毫も犯さず、二千五百年來鍛ひに鍛ひし、大和魂の煥發せる所なり、敷島の大和心を人問はゝ朝日に匂ふ山櫻花とは、よくも此の義魂を言ひあらはされたる事ならず哉。畏くも明治五年の御勅諭中、軍人は忠節を盡すを本分とすべし、軍人は武勇を尙ぶべしとの二ヶ條を、常に拳々服膺せる結果に外ならず。我軍人はかくあらばこそ、一旦事變に際會し、出戰の命を受くるや、家をも身をも打忘れ、堂々五尺の身躰も唯君を思ふ熱誠の塊



評議員　子爵夫人小笠原秀子筆

と也、劍山湯池を顧みず、死を見ると歸する如く、進んで君命の爲に屍を馬革に包み、背を敵に示すてふ卑法未練の行爲なきは、近來我軍隊歷史上に明に示されつゝあり。我軍隊の勇は決して暴虎憑河の勇にあらず、眞の沈勇なり、我軍隊此の如し、故に我々國民は枕を高くするを得るなれ、我軍人は此の如し、故に朝廷に於かせられても、特に軍人優待法を設けられ、叙勳條例・昇級條例・扶助條例・恩給令等あり、尙又赤十字社等の設けあり、後顧の憂なき樣せられたり。併しながら數多き軍人家族の中、或は困苦の狀態に陷り居るものなしとは斷言し難し。嗚呼千軍萬馬の中を馳驅し、流丸雨注の下をくゞり、幸に身に傷を帶ひず、凱旋の曉には國民歡呼の内に迎へられ、上朝廷より赫燿たる勳章を賜はりし軍人の意氣は、果して如何。之に反し一發の敵彈は不幸にも胸を貫き、殘念の呼聲を此世の名殘に、敵を睨んで名譽の戰死を遂げたる者は果して如何。靈は九段坂上に於て春秋二期鄭重なる祭を受くるも、家に殘りし妻女の心中果して如何、口には我夫は御國の爲名譽の戰死を遂け、聊か國家の御恩報じをなしたるとは言へど、裏面の心中を察すれば、誰れか一掬の涙なからんや。敵地に深く踏み入り、深夜人定まりたる後、既往を考へ將來を思ふ軍人は、よしや熱誠の凝れる軍人にせよ、望郷の念起らずとせんや。夫を失ひし妻女、家には老母あり、腕白盛りの子供と、乳房を含む乳くさき口とは、母の膝下と胸のあたりに取り纒ひ、かてゝ加へて資産裕ならざるに於ては、恰もわらはの家に於ける燕と異なるなけん。わらははわらはの家の燕を見、此等軍人遺族に推及し、感慨百出禁ずる能はざりき。然るに奥村刀自の主唱にて、博愛慈善の精神より、上は貴婦人方の斡旋により、玆に愛國婦人會なるものゝ設立ありしは、こよなき我國婦人の慈善的事業と謂はざる可らず、會の主意書にある如く、半襟一つを節減して云々とあれども、わらはは半襟は二つも三つも儉約しても、獨て此の會に入り、軍人遺族へ同情を表し、幾分たりとも國家の爲に盡されたる忠魂を慰めざる可らざる事と思ひ、わらはも會員の末班に加はり、頃日愛國婦人を讀み、不圖軒端にかゝる燕の巣を見、小さき胸に種々の感じ起りしかば、筆のまに〱書き記しぬ。

(完)

喜　靜岡　長谷川きよ子
雲の上に玉のをのこ御子あれますと聞しにまさる喜びそなき

同　三重　長谷部和子
よろこびの聲そ國中にあふれける皇子あれませる大御榮に

同　新潟　前崎てる子
いたつきのいえて我か家にかへります母をむかふるけふの嬉しさ

怒　岡山　稻葉八千代子
おのか子の過せむるその親のいかりや深きなさけなるらん

同　埼玉　中川よれ子
忍はれぬいかりなりとも露の間なしのはゝやかて忘れはてまし

同　愛知　鳥居いし子
いさゝかの事にかとたていかりてはあとに悔むそわかおろかなる

哀　東京　河西こま子
やしなはん子やなかるらんつゝれ着て物乞ふおきな哀れやせたる

同　群馬　須藤たい子
たとへんに物なきまてに哀しきは乳乞ふ夜はの孤兒のこゑ

同　大分　高山益代子
をのこ子に生れさりける悲しさに親にものをは思はする哉

樂　神奈川　内田謙子
いつしかとわが待つふみの届くべき日の近づくそたのしかりける

同　長崎　橋本てい子
夏やすみ近づくまゝにはらからのかへりこん日そ樂しかりける

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人傳

倭姫命

評議員　下田歌子

倭姫命は、垂仁天皇の皇女にして、御母は、皇后日葉酢姫なり。始め、天照太神を、宮中に齋き祭らせ給ひて、御鏡・御劍は、そが中に鎭め置かせ給ひしを、斯く、神と人と、次第に遠ざかりもて行く、世の末に、尚、馴れ近づき奉らんとは、いとも畏しと思させ給ひにしかば、遂に、神靈を、大和國笠縫の邑に分ち崇めさせ給ひ、豐鍬入姫命をして、奉祀せしめ給ひき。然るに、姫命、やう〱御齢つもらせ給ひ、辭任の御願ひもや深かりけん。垂仁の帝遂に皇女倭姫命におほせて、豐鍬入姫命に代らせ給ひぬ。さても、倭姫命は、御心ざま雄々しく將た萬づに至り深き御方にて渡らせ在しましゝかば、この、太神の鎭座は、然るべからずと覺召し、御自ら、さるべき處をと求めさせ給ひて、近江より美濃に出で、更に伊勢の國に入り給ひし程、命の御夢に、太神のあらはれ給ひて、是の國こそ然るべう思ふなれ、とのこゝろを託宣し給ひしにより、命は直ちに還り奏して、伊勢の國五十鈴の川上に、神宮を齋き祭らせ給ふ事とはなれりし也。

斯くて、景行天皇の四十年十月、御姪日本武尊、東國の夷を征せんとて、先づ、伊勢の神宮に詣でゝ、武運を祈り、御姨、倭姫命に遇ひて、宣ひつらんやうは、姨君にも知らせ給ふやうに、東夷しば〱叛きて、度々良民を惱まし、常に震襟を痛め申すこと、いとも畏し。己れ此度、征東の勅を受けて、下向し侍ること、若し、彼れ醜類を殲しにせずんば、生きて、再び姨君にまみえ奉るまじう思ゆれば、あはれ、姨君にも、太神に祈り申して、この御軍勝たせ給へかし。と宣はせたりければ、倭姫命つく〱と打ち聞かせ給ひて、左もや答へ給ひつらん。げに、宜ふことこそ、理りに覺え侍れ。此度の東征、最も大事の御軍なるべし。いでや、己れも、丹精をぬきんでゝ、太神の加護を祈りまゐらすべきは、言ふも更なるとぞかし。よしさらば、己れ、今御身が爲に、天の叢雲の御劍を借し與へん。こは、申すまでも無く、三種の神器の一つにして、苟且ならぬ御物にはあれど、斯かる大事の御軍率ゐ給ふ御身には、太神のかたしろ添はせ給はでは、かなふまじ。いで〱と宣ひて、つと身を起して、内陣に入らせ給ひしが、やゝありて、恭々しく、神劍を捧げ持ちて、立ち出で給ひ、尊に渡し給ひければ、尊の御悦びは譬ふるにものなく、忻喜雀躍勇みに勇みてぞ、御姨と袂を分ち給ひける。まことに、左も在しけん事の、理りにこそは覺えたりけれ。果たして、日本武尊は駿河の賊に燒き打ちせられ給ひし時も、此神劍の助けによりて、反對に賊を打ち退け給ひしなりけり。斯くて、東夷御征服ありて、都へ還り登らんとせられける折、俘虜は伊勢にとゞめて、神宮に奉らせ給ひき。さて後倭姫命は、東夷の、禮節に馴れず。疎野卑猥にして、物騷しくまさなかりければ、竊に奏して、夷は、神に近づけ奉るまじ。いと忝なくこそあれ。と言はせ給ひ、遂に、彼れらをして、こと〱く、御諸山にぞ徙し給ひたりける。

總じて、此頃の女子は、心雄々しく、萬づ物さわやかに、取りしたゝむる風ありけるは、是れ、後世の如く、女子を抑ふること、こよ無く成りはてにたらぬが故にぞあるべき。されば倭姫命、九重の雲深き窓にひとゝならせ給へる御身を以て、皇祖の御神の爲に、其鎭座を求めて、いと便りあしかりける、古への旅寐を重ね、近江・美濃・伊勢等の國々を經て、遂に、萬世不易の鎭座を見出でゝ、定め給へる。又、御姪日本武尊、東征の日、其大任をおぼし遣りて忽せならぬ御預りの神劍を取り出でゝ、援け給へる、大膽果斷の御ふるまひ、到底後世の女子が企て及ぶまじき御行ひにこそ在しましけれ。斯くて、尊凱旋の折、伴ひ還りて、神に捧げ給へる俘虜の、疎く卑しき行爲を見て、神威を穢させまじとの御遠慮も、すべて其中を得、道にかなひたる御趣け、いとも最貴く、いともあらまほしくこそありけれ。實に、御姨の御勵ましによりてこそ、尊も、いよゝ頼もしく思し召して、比類無き御勳功をも立てさせ給ひけめとぞおしはからるゝ。あはれ、我が國の女子達、其いにしへの賢く猛き御媛の、世に優れたる御蹟を慕ひ仰ぎて、ます〱善き道に進みもて行きつゝ、高光る我が天皇の大御稜威を曇らせまつる事無く、いよゝ大日本の國の光添へまつらんことを希ふべし。物のさとり開け、事のさまめでたくのみ成り增る御世に生れながら、萬づ、むかしにも劣り果てたらましかば、黃なる泉のもとなる、先聖達に、そも如何にして、面てをむくべき。かへす〱も、心に心して、能く務め能く勵まん事をこそ望ましけれ。

(完)

童話

魚の遊戯

月酒舍かつら

或處の港で、章魚と鰈と鯑とが出會まして、仲よく遊んで居りましたが、章魚は其處に船が泊つて居るのを見つけて、云ひますには、

(章魚)此船には今、船人が用たしに陸へ上つて、誰も居ないから、なんと、皆船の中へ這入て遊ばうではないか。

(鰈、鯑)それは面白からう。

と贊成して、連立て船の中へ這入りました。

(章魚)何をして遊ばうか。

(鰈)なんと、皆が一藝づゝ隱藝を演て見やうぢやないか。

(鯑、章魚)それは宜からう。先づ云ひ出した魚から始めなさい。

(鰈)イヤ、抽籤にしやう。

(章魚)それなら私が籤を出すから、一寸お待ち。

と、章魚は後へ向きましたが、やがて向き直り、自分の足を三本だけ、根本の處を頭で隱しながら、ずッと前へ投出しまして、

(章魚)サア一本づゝ抽きなさい。殘りが私の。

(鯑)此抽籤は如何して順番が分るのですか。

(章魚)足の根本が藁されて括ッてある。二つ括ッてあるのが一番、一つが二番、括ッてないのが三番ちや。サア抽きなさい。

(鰈鯑)合點ちや。南無龍宮の乙姫樣、よい籤が當るやうに願ひますと、禱りながら、鰈と鯑とは、章魚の足の尖頭を一本づゝ銜へましたから、章魚が頭を擡げて見ますと、一つ括ッたのを鰈が銜へて居り、二つ括ッた分は殘ッて居りました。

(章魚)ヤ、殘り物に福ありか。一番に演らう。

と帆柱の根本から、足を吸付けては昇り、吸付けては昇り、ずッと尖頭の滑車の上まで昇り詰めて、

(章魚)是れからいよ〱藝道に取りかゝる。下からズドーンと大きな聲を擧げて下さい。

(鰈鯑)ズドーン

と叫びながら上を見ますと、章魚は「パチ〱パチ」と云ひながら、滑車の頭へ自分の頭を載せ、八本の足を八方へ擴げて、伸びるだけ伸ばして居りまして、

(章魚)如何だ、巧いだらう。花火が上ッた處だ。

(鯑、鰈)玉屋ー鍵屋ー

やがて、章魚は降りて來まして、

(章魚)サァお次の番だ。

(鰈)それでは一つ演らう。

と鰈も亦帆柱に取付いて、一間許昇り、上から垂れて居る帆綱の端を銜へてぶら下りました。

(章魚)それは何の眞似ぢや。

ときゝましても、鰈は帆綱を銜へて居るから、口をきくと落るので、默ッて唯ぶら〱して居ます。

(鯑)ハ、ア、煙草屋の看板だらう。

(章魚)成程、これはうまい。

(鯑)今度は私の番か。

と云ひながら鯑はザンブと海中へ飛込みました。

(章魚)オイ〱、お前は藝をしないで逃げてしまッてはいけないぜ。と云ッて居ります中にゴッーンと船の底で大きな音がして、船が搖れました。

(章魚)ハ、ア、魚形水雷といふ藝道かナ。

(鰈)成程、これは面白い、感心々々。

と頻りに褒めながら、海を覗き込んで居りますと、鯑は腹を返して浮き上りました。

(章魚、鰈)ヤ、鯑が如何かした。

と直に海へ飛び込んで、介抱に出かけて見ますと、鯑は今、力一杯船へ衝き中ッたので、酷く鼻を傷めて苦んで居ります。その後、鯑は長わづらひをして、翌年の春まで遊びに來るとが出來ませんてしたとさ。

遊ぶにも能く氣をつけて、危險い遊戯をせぬとてす。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

●家事要領

●家事衛生 第二 看病(つゞき)

看病の用向を仰々しくして其骨折を病人に覺らしむるは惡し、されども躡て歩み、聲を潜めて、又は室外に出て、話すなどは病人を激越せしむるものなり。

病人の顔色舉動に注意し、其爲さんと思ひ除かんと思ふ事に不滿足なき樣取計ふべし。

さわがしきは病人の悩みを増すべし、病人に言ふべきことある時にても決して急に話しかくべからず。聲を立てゝ物讀むべからず、病人の考ふると話すとは故なく遮るべからず、病人の徐歩する時は成るべく其を妨げざる樣にすべし。手紙を渡し言傳を爲すにも其座臥に復したる上のことにすべし。

病人に對しては道理と決斷とを示し、言ふと爲すと總べて靜にして確なるべく、些細の事にも疑ひある氣色を見すべからず。

醫師の診察を受けたる時、家人は能く病人に對して爲すべき事、注意すべき事を尋ね置き、醫師の去りたる後は其命令を確守すべし。再び醫師の來れる時容態を告ぐるには、決して自分の意を以て取捨することなく、ありのまゝを語るべし。又疎漏の話し方を爲すべからず、例へば單に眠り惡しとか、食氣は宜しとか云ひしのみにては不十分なり、必ず何時間眠りたり、何品の如何樣に調理したるを何程食べたりと告ぐべし。

醫師に告ぐべき爲に病人の容態を記すには、分り易く記し置き、若し自分が居らざる時にても、何人にも分る樣に心すべし、其主要なる事を左にあぐ。

○脈搏のこと○體溫のこと○夜中のこと○臥位のこと(仰臥、左臥、右臥など)○安不安のこと○疼痛のこと○囈語のこと○睡眠のこと(一續に眠りたるか、度々目覺めしか何時間眠りしか)○苦悶きを告しか○沈り返りて何事にも無頓着なりしか○呼吸困難樣なきか○無意識ならざりしか○渇はいかに○味はいかに○食事のとき惡心とありしや○食思消化はいかに○便通の性狀染色は如何(下利)小便の分量染色(尿滞)如何○咳嗽あるか○咯痰あるか○胸に疼痛あるか○動悸あるか。

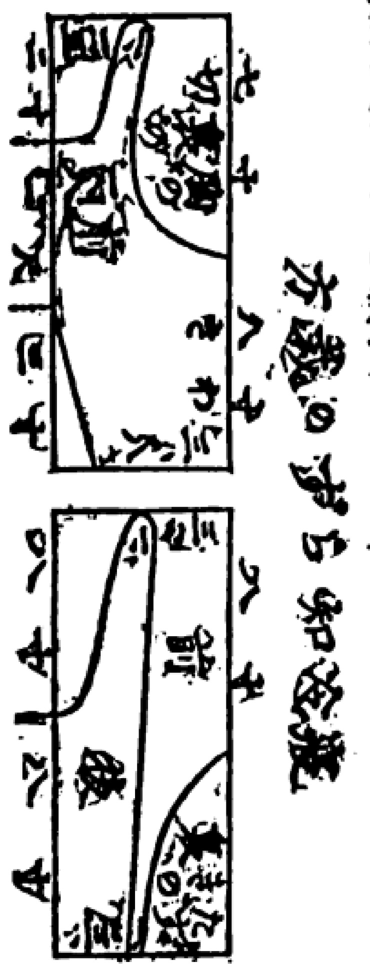
●裁縫の寸法

●寢冷知らず

○常巾長さ三尺一寸の布を以て、寢冷知らずの裁方及縫方は次の樣に致します。

○縫方は 第一、胸裏及たすきの裏を付け、次に脇縫をなし、其縫目は前の方に返して單なれば押縫をなし、次に腑下を縫ひ、其縫込は前の方に返して押縫をなし、次に裾口を縫ひ、次に穴かゝりを致します。

寢冷知らずの裁方



●小裁被風

○幅二尺長さ七尺のメリンスを以て、五六歳の子供の被風の裁方及積り方を次に述べます。

○積り方は 袖丈の一尺五寸五分を四倍し、之に小衿丈の八寸を加ふれば用布を知るのであります。

袖丈 小衿丈 用布
15.5×4+8.=70.

○右の裁方は 先づ七尺の用布を幅七寸七分横に裁切りて、之より一尺五寸五分の兩袖を取り、殘りの丈八寸を小衿の丈といたします。而して身頃はさきに七寸五分取りたる殘りの幅一尺二寸五分一幅を後身に當て、後丈二尺前丈二尺五寸に積りて前丈に袖口の切一尺一寸を續け置き、衿肩の裁落し切を衽の切と致します。次に竪衿は身頃を取りたる殘りの丈一尺四寸を、幅二つに切りて左右の竪衿の丈といたします。

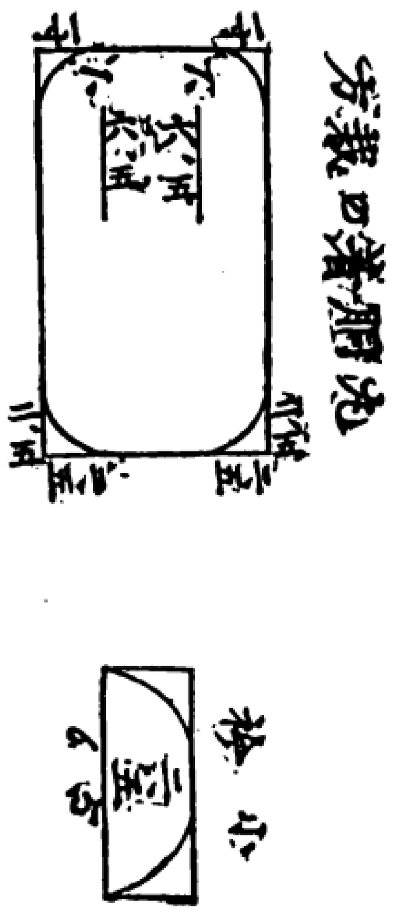
○仕立つる寸法は 袖丈は着物より三分長く、袖付と袖幅は一分づゝ多くし、竪衿の下りは衽下りより八分多くいたします。而して竪衿の幅は衽幅と同樣です、襟の幅は下一寸五分上四分位にします。次に小衿の丈は竪衿の下りの二倍にて、幅は小衿の丈の三分の一前下りは七分の出來上りであります。

●丸胴着

○常幅長さ一尺三寸の切地にて、丸胴着を裁縫いたしますには左の如くに致します。但し裏と表とを重ねて裁つのであります。

○縫方は 肩と前の脇の處を殘し置き、其ほかは一分位の縫代にして小針に縫ひ、裏の方に折を付け躾糸を掛けて綿を入れ、引返して前の脇を絎け、而して紐を肩より四寸五分下げて付けます、次に裏の方に小衿を縫付け表にて絎付くるのです。

丸胴着



●女禮談片

●受膳次第

他家に賓客に招かれて饌具悉く供せられ、主人の挨拶終りたる時は、賓客亦相當の謝辭を述べ、然る後膳に向ふべし。扨先づ本膳に在る飯の蓋を左手にて取り、右手を添へて持ち直し、左の手にて膳の左の側即ち飯椀の側に當る所に仰向けて置くべし。次に汁の蓋をとるべし。それは右手にて取り、左手を添へ持ち直して、右の方即ち汁椀の側に當る所に置くべし。次に坪の蓋を取る、其仕方飯椀の時に異ることなし。坪の傍に當る左手の所に置くべし。

第一 飯

兩手にて飯椀を取り左手に据ゑ、右手にて箸を取り、箸の中央を持ちたる左手の無名指と、小指との間に箸を挾みて持ち直し、二口ほど喰ひ又箸を前の如く指の間に挾み、持ち直して元の如く膳におくべし。世間には尖の方を膳の左の縁に掛けおく作法あれども、汚れたる方を顯はすは餘り見よき事にあらず、故に平常人の爲す如く、元の方を右の縁にかけ、尖の方を膳の面に接するやうに置くべし。蓋し膳を汚す恐れありといふ說あれども、箸の尖をさのみ汚し置かざれば、目に立つばかり膳を汚すことはなし。且つたとひ聊か膳は汚るゝとも、寧汚れたる尖を顯はすには勝れり。

第二 汁

兩手にて汁椀を取り、先づ一口吸ひ左手に据ゑ、さて箸をとり前の如くして持ち直し、汁の實を喰ひ箸を置き、兩手にて汁を吸ひ、然る後元の位置に置くべし。

第三 飯

前に異ることなし。

第四 汁

兩手にて汁椀を取り上げ、前の如くして箸を持ち、此度は先づ實を食ひ、箸を置き然る後汁を吸ふべし。

第五 飯

前の如し。

第六 膾

先づ右手にて箸を取り、左手を添へて持ち直し、左手を突き、顔を少しく膳の方に出し、膳に置きたる儘にて箸にて挾み、皿の縁にて酢の滴らざるやう、少し絞りて後に食ふべし。

●流行病に就ての注意

左の一篇は、本會理事鍋島侯爵夫人評議員濱尾夫人を始め貴婦人方の設立に係る、私立大日本婦人衛生會の機關雜誌婦人衛生雜誌に出てたるものなり。虎列剌病流行のおそれある折から、いと有益なれは、こゝに轉載す。

●身体注意

○夜中及午睡中は必ず腹卷を施し、寒冷せざる樣注意すべし。

○晝夜に拘はらず、少しにても身体へ寒冷を感ずるときは相當の着衣を爲すべし。

○少しにても腹工合宜しからず、又は感冒に罹りたるときは速に醫師の診察を受くべし。

○夜具類は時々日光に曝し、成るべく乾燥せしむべし。

○寢衣は時々洗濯して清潔ならしむべし、衣類も清潔のものを用ゆる樣注意すべし。

○時々沐浴し又は頭髮を洗ひて、身体の清潔に注意すべし。

(つゞく)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮廷録事

◎皇太子殿下　去にし廿二日御歸京あらせられ、廿三日日光田の澤に行啓あらせられたり。

◎皇太子妃殿下　御產後の御經過極めてよろしく、何等の御障りもなく、益々御健勝に渡らせられ、去にし十六日は御枕直しの祝日に相當したるを以て、同日より殿下には御產所を出でさせられ、常の御座所に移らせられたる趣なり。

◎淳宮殿下　御降誕後頗る御平穩に渡らせられ、未だ一回も御服藥など遊ばされたる事なく、御食慾御便通等の御程度尤も宜しくして、些の御異狀なく、日増し御成育あらせられ、尙御乳は當初は母君なる妃殿下の御乳のみを用ひさせられ、夜間のみ御乳人の乳を召させらるゝことに定めさせられて、牛乳は未だ御用ひなき由に承る。

◎富美宮泰宮　兩内親王　去にし十八日午後二時十分、林御養育主任の供奉にて御參内、兩陛下に御對顏の後、午後三時御退出あらせられ、二十日午前七時新橋發滊車にて箱根宮の下御用邸に成らせられたる由。

◎小松大宮妃殿下　殿下は去にし十八日沼津に赴かせられ、迪宮殿下御訪問、夫れより三島の御別邸に趣かせられたり。

◎愛國婦人會記事

◎本部より各支部への通牒左の如し。

拜啓各支部より本部に向つて照會往復等の書類には、可相成其紙側に取扱者の檢印を捺せらるゝ樣致し度、此段申進候也

明治三十五年七月　愛國婦人會

啓拜各支部に於て事務員を置かれたる節、其任免又囑託解除共本部へ御屆出相成り度、此段申進候也。

明治三十五年七月　愛國婦人會

◎評議員の增加　今般會長より左の夫人を評議員に推薦せられたり。

陸軍少將内山小二郎夫人　内山訓子

◎小笠原相談役の書信　本會相談役小笠原子爵より、第四回の書信佐藤少將宛にて來れり、左にかゝぐ。

六月十日英國西南部プリマウスに到着仕候、目下交際上多忙を極め候間其内狀況可申上候、先頃は岩倉樣原樣留守宅御訪問被下候由奉鳴謝候、先は御報知迄如此御座候。

プリマウスにて　小笠原長生

◎相談役澁澤男の米國大統領訪問詳報

澁澤男一行は六月十三日米國紐育に着し、同十五日ワシントン府に至り、翌十六日午前十一時高平公使同道、大藏卿ショー氏に面會し、引續き國務省に至り國務卿ヘー氏に面會し、夫れより十一時四十分更に大統領ルーズヴェルト氏に謁見したり、大統領は男爵を其官舍なるホワイト、ハウス階上の書齋に延見し、懇談三十分餘に涉りたり、其大統領との會見の詳細左の如し。

澁澤男は先づ來意を告げ且つ曰く、今回圖らず貴國に來遊の機會を得て、今日拜謁するを得たるは余の大に光榮とする處なり。

ルーズヴェルト氏　男爵の來遊は何れの途を採られたるや。

澁澤男　去月下旬桑港に上陸し、シカゴ、ピツツバーグ、フヰラデルフヰヤ等を經て、兩三日前紐育に到着せり。由來日本が今日の地位に達したるは、實に貴國に負ふ所少なしとせず、是れ我國人が常に貴國に向て感謝する處なり。

ルーズヴェルト氏　貴國近時の進步は余の兼て傳承する所なり、由來貴國の美術は世界に冠絶すと稱せられ、又貴國の軍事に至りても其名聲嘖々たるものあり。現に清國事變の後彼地より歸りたる將校等より聞く處に據れば、貴國軍隊の勇武なるは露國獨國佛國は勿論英國と雖も共に皆賞讃する所にして、特に其行爲の嚴正なるは我合衆國軍隊の模範とするに足るべしと云へり、是れ余の大に敬慕する處なり。

澁澤男　我國の美術及び軍事に關し、閣下より賞讃の辭を聞くは實に滿足の至りに堪へず、併し余は現に實業に從事するものなるが、我國の商工業は夫の美術軍事に比すれば其名聲極めて寂々たるの憾あり、故に余は今後益々奬勵して商工業の發達に勉め、他日再び閣下に拜謁するときは、閣下より我國の商業に關し更に同一の讃辭を辱うせんことを期す。

ルーズヴェルト氏　男爵の所見は大に余が意を得たるものあり、今後男爵にして益々貴國商工業の發達に勉めらるゝに於ては、必ずや其好果を見るべきは余の確言する處なり、之を要するに余は男爵の所見に對し熱誠なる同情を表するものなり。

澁澤男　余の見る處にして幸に閣下の同情を辱うせるは、余の大に滿足する處にして、是れ余が永く記憶して忘れざらんと欲する處なり、此事は歸朝の上特に我國の商工業者に通じて、其注意を喚起せんとを期す、猶ほ茲に一言したきは、余が日本を出發するに當り、日本全國商業會議所は我國商工業者と歐米商工業者との間に交誼を親密ならしむるの必要を認め、特に其決議を以て余に附託するに相互の間に意思の疏通を圖らんことを以てせり。余の不才なる或は其任に堪へ得べきや私に懸念に堪へずと雖も、苟も機會あらば可及的其趣旨の貫徹せんとに勉むる考なり、願くば閣下之を領意せられ度し。

ルーズヴェルト氏　男爵の希望せらるゝ所は余も亦大に希望する處なり、就ては余は欣然余の力に爲し能ふ限り盡力すべし、男爵は既に紐育商業會議所會頭に面會せられたる由。

澁澤男　出發の際貴國公使より紹介を附せられたりと雖も未だ面會せず、何れ紐育へ歸着の上面會する見込なり。

ルーズヴェルト氏　國務長官とも協議の上特に同會議所の會頭に照會し、可及的男爵の希望せらるゝ趣旨の貫徹する樣心配すべし、就ては本日午後男爵旅行の目的を摘記し、余の手許迄送られたし。

澁澤男　敢て閣下の厚志を謝す。

ルーズヴェルト氏　高平公使は余の平素最も親交し且つ大に信賴する處にして、特に同公使夫人は交際場裏に名聲ある人なり、願くば男爵の歸朝せらるゝ上は、相當の手續により貴國天皇陛下に傳奏せられ、且つ陛下の政府へも宜しく之を傳達せられたし。

澁澤男　諾

◎奥村五百子刀自　去にし十日出發　本會業務擴張の爲め、北海道地方遊說の途に就かれしが、渡島國松前郡福山町に數日滯在し、去にし十六日には札幌大谷派本願寺の說教所にて演說會を開き、非常なる盛會なりしよし、尙巡回日誌到達次第詳細に報道すべし

◎中尾淺間艦長よりの書信　英國　皇帝陛下戴冠式に參列の榮を得て、淺間艦長として出張中なる海軍大佐中尾雄氏は、本紙發行につき特別賛成者なれは、本紙のため公務の餘暇盛儀の模樣を報知せらるへき約を結たる旨は、本紙第二號に於て豫告せし處なるが今般記者に宛て、左の書信を寄せられたり。

一筆申上候扨五月三日「コロンボ」出艦、五月十三日「アラビヤ」と「アフリカ」洲の間にある紅海（「レッドシー」と云ふ）に入る、此海上は波靜かにして艦の動搖少きも暑熱は愈々甚しく、室内の如きは百度以上に有之候。五月十五日「アラビヤ」の東岸にある「アッタ」と云ふ都府の沖合ひを通過す、此地は世界に於ける人間の元祖「イーブ」の墓所ありて有名の地なり此邊全世界にて暑氣最も烈しき處にて候。五月二十日「ポートセイド」着石炭等積込み翌二十一日出艦、此處より地中海に入り申候、五月二十七日「モルタ」着、此地は地中海に於ける英國の最要地にして同國艦隊五十餘艘集合し頗る壯觀を極め候、五月三十一日「モルタ」出艦、六月八日には「スペイン」國の西岸を航行す此邊より寒氣加はり外套を着用せざれば凌ぎ難く相成申候、此地は我國北海道箱館より三百里ばかり北方の緯度に相當致し候、六月十日、英國「プリマウス」港に着、日本を出發してより六十五日里數一万二千五百里、此地は箱館より北方六百里斗りの緯度に有之候、以上長途航海せしも小生初め艦員一同壯健なりしは實に幸福に御座候、戴冠式相濟み候後一ヶ月各地に碇泊歸途に就く筈、右大略のみ早々不具

六月十一日　英國「プリマス」に於て　中尾雄

婦人小供のため地理の研究にもと存し右認め送り候也

○夕立

岡山　輕部伴子

黃金なとかすとかや唐人のいひけむも、げにことわりの今日のあつさや。木の下かげも水のほとりもそよ吹くかぜの音なひもなく、かゞやく日かげに草木はしをれ、やり水はかれ、訪ひくる友とてもなくはた書よまむも物うし。扇もつ手もちからなく、たゞあへぎてのみあるほどに、むかつ峯のあたりあやしき雲たちまよひ、鳴神のをとあるは遠くあるはちかくたゞならぬ景色とはなりぬ。あなうれし夕立すらしと獨ごつほど、大ぞらにさながら墨をながしたらんが如く、烈しきかぜにつれて雨はよこさまにつぶてを打つやうなり、神のをとおどろ〳〵しく、はためく稻妻いとすさまじ。あなやといひて物とり入れやり戶引きしめなと、いとあわただし。しばしあるほどさしも烈しかりし雨もはれつ、光も音も遠ざかりぬ。急ぎ戶押し開けは、庭は時のまに海となりて、蟬ひまなき木立、先つほどの同じ處とも覺えざりけり。やゝならなりたてば吹きくるかぜはうすきぬの袂をとほして、凉しさ身をかへたるばかりなり。折しも山の端にのこる夕付日の青葉の露をてらしたるさへぞいひしらずすゞしき。

○海邊納凉

靜岡　杉山きん子

此頃のあつさたへがたきに、たちぬひのわざにさへつかれにたれば、しばしすゞみてこんとて、夕つかたより程近き海べに出でぬ。數々の船うかびてすなどりするおもしろく、またあまの子らが水に入りてたはむれ遊ぶさまもをかし。ともなひ來つる子供に船にのらんはいかにとさゝやけば皆よろこぶこと限なし。やがてひとつの小船をかりてうちのりあちこちこぎめぐるほどに、ひんがしの山のは出づる月の光きら〳〵と海の面をてらして、すゞしさ心地よさたとへんにものなし。時すぐるもしらで居るあひだに、夜もふけぬべければとて、おの〳〵家にかへりぬ。

小船うかべてあそぶすゝしさ
てる月の光うつろふ波の上に

あらいそによせくる浪の音きけば
夏のあつさもわすられにけり

○愛讀者諸君に告ぐ

愛讀者諸君より轉居の旨を通知せらるゝ時は、御手數ながら、新舊兩住所を御記入下されたく候

愛國婦人發送係

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎婦人論概梗

◉武田女子高等師範教授の「女子の獨立心を養ふべし」 獨立自由を希ふは人の天性にして男女を分つべきにあらず、然るに世の父母たる者、男兒に於ては其必要を認めながら、女子に對しては婦人三從の義を誤解し、家に在りては父母兄弟に頼り、嫁しては其夫及び舅姑に頼り、老いては其子に頼らしめ、毫も獨立の氣象を養はず、故に一朝其頼る所の人を失ふ時は、復た自ら奈何ともする能はざるもの頗る多し。父兄が其子女に高等教育を受けしむるも、其卒業證書は僅に良家に嫁する資格を得しむるため、即ち父兄の保護より去りて新に良人に依頼すべき準備に止まるもの多し。斯の如き家庭に人となりたる女子は、父兄の資産を頼み獨立心及び勉强心に乏しく從つて成績不良にして、嫁しては專ら其夫に依頼し、甚しきは獨り家政を整理する能はず、社會に對する義務の如きは夢にだに知らず。斯る妻女を迎へたる夫は、内助を得んとして却て困苦を加へ、甚しきは妻女の浪費を補はんがため、不義の利を貪り遂に不正の道に陷るに至るものあり。若し又斯の如き婦人が偶不幸に遇ひて、夫を失ひ財を失ふとあらば復た奈何ともする能はざるべし、是れ父母が其子女の獨立心を枉げ、偏に其依賴心を養成したる結果に外ならず。米國の今日の盛大を致せる原因の一は、國民の獨立心の發達也、即ちニューヨーク市のみにても高尚なる職務を執れる婦人の數十萬以上、大學校美術學校其他の高等學校に修業する婦人一萬以上なりと云ふ。然るに吾國にては一家の長たるものは、平均五人半の口を養ふ割合なりと聞く、故に家に餘裕を存するは甚困難にして、國富の増加の容易ならざるを明なり。要するに婦人の勢力は其國社會の道德風俗等に大關係あり、婦人の位置の高さは即ち其國の位置高きなり。故に婦人の教育も男子と同しく、其品性を高め其獨立心を發達せしむるを必要にして、徒に虛飾の教育に甘んじて卒業證書を婚嫁の材料に充てんとするが如きは大なる誤りなり。云々、(女學世界)

◉五十嵐力氏の「今日の日本婦人に特殊なる天職」 いづれの國いづれの時代にても理想と現實との衝突なきはなし、而して今日吾國の婦人社會に於ける此衝突の烈しさは、何れの國にも未だ曾て無き程也。即ち此衝突は事柄よりいへば婦人の權利、地位、自由等に關し、相手よりいへば夫、舅姑、社會等に關するものにして、約言すれば新思想に觸れたる婦人が「我等は女子としてかくありたし」と胸中に描きたる理想が、在來一般の風習に對する關係也。而して吾國今日の婦人の理想は第一、婦人は自ら男子の附屬物と卑しめずして、男子と協同して國家を成すべき一人格なりと信じて一家を整理すると、第二其家は自己が社會に働く立場にして、夫を助け子を育つるは國家社會に盡す所以なりと思うて、家庭を平和にし家風を高潔にすると、第三胸中に氣高き志操を保持しながら、情愛を以て家庭を和ぐると、第四自己の徳を進め夫の徳を進め、漸次に家族郷黨社會の徳を進むると、第五學術を研究し眞理を維持普及すると、第六宗教の爲に身を獻ぐると等なり。而して是等の理想を懷ける婦人が舅姑ある家に嫁ぎたる時は、其が嫁たるもの些の衝突なく獨立自由對等の一人格と待遇され得べきとせんか、その夫が同情深く妻の見識を喜び其意見を是認するのみならず、其舅姑も亦嫁を愛しみて新夫婦の意見に從ふとしても、尚普通中產の家にては積習の致す所、夫の出入に際しての送迎乎、より衣服履物の世話に至る迄、自己が夫に對して爲す如く夫は決して己に對して爲すとなき也。又特に志を立て學藝を修めんとするも、飯鍊洒掃割烹等の世話のみを女子の職分と教込まれたる舅姑は、自然之を道樂に耽るものと見るべし。然かも少くとも妻たるものは新理想を實行するを憚る易一ならん、舅姑なき家庭に於ては心中に些の憂苦痛を感ぜずして理想を實行し得べき乎、夫に警察或は惡所通ひなどの醜行あらんか、已れに千萬道理ありとても之を意見するとは已れの氣が咎むるのみならず、夫の氣色を惡くし從て家庭の平和を害するを以て、自己の生命ともいふべき大切なる理想を殺しても、夫の不德不道理を立てしめて一時の安息を得んとするに至らん。畢竟古來の習俗が婦人の心中に一層の領分を占めて新理想と相敵する爲にして、夫舅姑及び社會などが已の理想に逆ふ如く見ゆるも、亦夫舅姑等の心中に此習俗が固まり居るが爲のみ。既に新思想を解せる婦人自身等の心に於てすら此衝突を免れずとすれば、已れより一層舊思想の浸み込める長者に向つて、斟酌なく我意を張らんとするは決して穩當なる所爲といふべからず。されば今日の婦人は一面將來の習慣の前に已れを枉げて舅姑を奉養し夫を愛しながら、一面堅く理想を維持して永久に其實現を誤らざるべからず、是れ即ち祖先を敬ふと同時に子孫の爲に正路を開く所以にして、畢竟醜俗を排棄し美風を操作する急先鋒たるに在り、豈光榮ある天職にあらずや。随て專ら今の婦人に希望する所は第一に慢心を起すとなく學問藝術を勉强して、已の知識品性を高められたき事、第二に自ら固く其理想を維持すると共に、之を實現するに適するやうに其子女を教育されたき事、即其子女に眞理の尊ぶべきとを知らしめ、男女互に敬愛して互に輕侮するとなき樣教育されたき事是也。さすれば長日月の後子孫の代に至つて、遂に其理想が實現せらて、諸姉は此光榮ある事業の祖と崇めらるゝを得べし。云々(なんな)

◉三輪田眞佐子刀自の「女學の勃興」 目下女學の勃興は誠に歡ぶべき現象なれども、一時の流行的風潮に非ざるかと疑はるゝ也。女子が高等の學問を研究するは果して學問の價を知りて學問するか、普通の教育を受けんとする者も眞に教育の必要を感じて校門に入るか、思ふに前者の中には一種の夢想を理想とするものあらん。されば之は失望を以て終るべし。後者の中には單に卒業と云ふ形式上の名を以て滿足するものあらん、然れども今日の世は實力と實踐とを尊ぶを以て、單に名目のみに安ずるものは良緣をも得難く異日の悔あるべし。随而此兩者の影響反動として女學の衰退を來さん、されば今の隆盛を見て直に歡ぶべきにあらざる也。次に最も憾みとする點は、數多の女學校は男子の設立に係り、甚しきは教育の何物たるかを解せざる人にして女子教育を業とするもの之れ有ると也。或は曰く女子は統御の才に乏しきを以て、止を得す男子に依囑せざるを得ずと、されど女子教育の要は良妻賢母を作るにありて、嘗に學藝を授くるのみならず身を以て感化の任に當らざるべからず、是れ世人の要たりしとなく人の母たりしとなき男子の能くすべき所ならんや。勿論男女共通の德性は剛性中何れが感化の任に當るも可なりと雖も、女子に特有なる性格は女子にあらざれば知る能はざる也。要するに今日の女學は人爲的隆興にして自然の發達にあらざる也、自然の發達を望まば須らく女子自ら女子界の福祉の爲に教育の道を開くべし、況や各種婦人會の如きも女子自ら經營する能はずして、男子の助力を仰ぐ限りは自然の發達進歩と云ふべからざる也。併し斯く言ふもおのれは男子の干渉を非難するものにあらず、唯今日女學の勃興は男子の誘導補助に由るを以て、眞に婦人の名譽にあらざるをいふのみ、且つ男子は婦人の心理に通せざるを以て、女子教育は將來必す婦人の手に由りて行ふべきものと信ずる也。云々、(女鑑)

◎學事彙報

◉東京音樂學校 曩に募集せし甲種師範部假入學生三十餘名に對し、此程試驗を執行し、其通知を去二十一日に發せし趣なるが、多少の落第者もありしよし。尚同校には豫科生徒及乙種師範科生徒を募集する趣なり。豫科(一年)とは本科生(三年)に入る準備科にして、本科卒業生は音樂得業士の稱號を得、中學校高等女學校以上の教師たるは勿論、音樂の專門家として世に立ち得るものなり。今般の募集人員は三十名にして、女子と男子とを問はず十四年以上にして入學試驗に合格せしものを採用し、入學試驗科目は讀書、作文、算術、日本地理、日本歷史、英語、唱歌、體格にて、高等女學校二年級を修業したるものは體格、唱歌、英語の外試驗を要せさるよし。乙種師範科とは修業年限僅かに一ヶ年にして、卒業の上は尋常師範學校卒業生と同しく、小學校の音樂教師たるの資格を有するものなりと。今般募集の人員は二十人にて男女に拘らす年齢十七年以上にて入學試驗に合格したるものを採用す。入學試驗科目は讀書、作文、算術、地理、歷史、唱歌、體格にて、高等小學校を卒業したるものは體格、唱歌の外入學試驗を要せず。兩科とも私費なれども乙種師範科の方は授業料を要せず、樂器も貸付さるゝよし。尚ほ詳細は十月十一日の官報に付て見るべし。

◉東京女子美術學校 去にし十一日大隈伯爵は同校を參觀せられ、生徒一同に對し、日本婦人の特性と云ふとにつき、一場の演說ありたるよし。

◉私立音樂學校設立計畫 板垣伯爵の主唱にかゝる風俗改良會の發企にて、風俗改良の第一手段として社會的音樂の改良を計るの目的を以て、過般來府下に私立音樂學校設立の計畫あるよしにて、主として事に當らるゝは理學博士田中正平氏にして板垣伯、田鎖次郎氏之を助けらるゝ由。尚ほ故西郷侯も此校の設立計畫を助けらるゝ筈なりしに、中途にして薨去せられたるは殘念の事にこそ。余輩は音樂の改善普及を希望すること切なり。風俗改良會が此擧ありと聞き、其成功の速ならんとを祈る。

◉東京府第二高等女學校 麻布區日ケ窪に新築中なる同校は、此程校舍も略落成せしに付き、鳥居阪町の假校舍を引拂ひて、移轉せしよしにて、來る九月の新學期よりは新築校舍にて授業を始むべしとぞ。同校は新設の事にもあり、教師は最も熱心に教鞭を執り、特に女子體育に注意し、大に遊技運動に力を盡すといふ。

◉日本女子大學校 同校は今般日本女子大學校一覽なる册子を編み、同校贊成者を始め廣く配布したるが、今此册子により同校の教育方針を紹介せんに。女子を人として、婦人として、國民として、の三方面より教育するにありて、人としての教育には單に實用の學藝のみを授けずして、人間として當然具備すべき心身上の能力を啓發開展し、如何なる境遇に處し、如何なる職業に從ふも、缺くべからざる人格を養はしむるにあり。婦人としての教育は、婦人には婦人として特別に修むべき德あり、擔ふ可き知あり、備ふべき能あるが故に、凡て此等婦人に必要なる智識技能を授け、以て賢母良妻たらしむるにあり。國民としての教育には國民たるの觀念を與へ、社會の一員たるとを自覺せしめ、日本婦人の特性を備へ、國家社會に對し國民としての義務を盡さしめんとするにあり。以上三個の綱領により、之れが實行の方法として第一開發主義の教育を施し、生徒をして自ら研究し工夫し動作する習慣を養はしめ、漫りに他人を摸倣し、教師に依賴するの弊に陷ることなく、徒に博識多能ならんよりは、寧ろ事物の眞相關係を辨知し、藝術の原則妙理を會得するに必要なる智力を鍛磨し他日の應用自在を期す。殊に德育に於ては自奮自修、他の指揮を待たず進んで各自の職を盡すの良習を養成せしめんとするにあり。第二に特性の發育には生徒各自の特性に適合する教育を施すため必修選修兩科を併置して、學科科目選擇の自由を與へ、體質の强弱により自適の運動を選はしめ、德性習慣の差違は各々に付て品格の陶冶を計る云々。

◉全國女子教育の現況 女子教育の必要に迫まられ、高等女學の數も年々増加の有樣なるが、今文部省の調査によれば、全國に於ける校數八十、生徒二万三千百八十人の多きに達し、三十五年の卒業者總數は實に二千八百六十人に及び、之を明治二十年に於ける卒業者總數六十一人に比すれは非常なる進歩なり。然れども之れを中學の總數二百五十八校生徒數十万五千四百廿四人に比すれは、尚ほ非常なる差違ありと云ふへきなり。

◉三輪田女學校 本會評議員三輪田眞佐子女史が獨力經營になる、麴町四番町の同校新築校舍は、工事捗どり八月下旬には落成の運に至るよしにて、九月下旬に開校式を行ひ同時に多數の生徒を募集する趣なり。

◉東京女學校夏期講習會 過般新設したる下谷區の同校には文學博士小杉榲邨氏を會長として來る廿八日より夏期講習會を開くよし。

◎雜報

◉奈良婦人會 同會は昨年十月始めて設立せられ、會員は相互に德性の涵養を勝むるの趣旨にて時々名士の講話を聞き、最新の手藝を練習する筈にて、其會場を奈良高等女學校内に置き、會員百餘名にして毎月集會を開き居るよし。

◉京都篤志看護婦人會 去にし五日午後二時より京都市會議事堂に於て篤志看護婦人例會を開きたり、來會者は會長村雲尼公、副會長大森知事夫人を始め會員百餘名にして、木村氏の育兒法及び繃帶術に關する講談ありたるよし。

◉北海道士人教育慈善音樂會 本會評議員子爵松前藤子夫人の首唱にかゝる同會は、來る九月開會の事に決したるよし、尚士人教育會一部の事業として、四万圓餘の基金を以て教育所を設置する計畫にて、趣意書を一般に配布したる趣なり。

◉時事新報の女子部慈善旅行 兼て報道したる同社の女子部慈善旅行は去にし廿一日を以て開始したり。其目的地は相州鵠沼にして一行女子の人員は七十名にして十歲より十二歲に至る少女なり。監督員は潮田女史外十數人にして、往復四日間にして江湖の慈善家よりの寄附も少からず好成績を以て旅行を終へたる趣なり。

◉看護婦の名譽 北清事件に際し廣島衞戍病院にて、佛國傷病士卒の看護に從事したる看護婦中、日本赤十字社京都支部の推薦に係る左の二名に對し、今回佛國政府より頭首の徽章を贈與したる由。

京都市上京區室町通り二條下る蛸藥師町六番戸　田宮テイ

京都府下丹波國南桑田郡龜岡町　長澤キヨ

青銅製名譽徽章

◉料理講習會 石井氏の割烹學校内に設けたる料理講習會は家庭に於て主婦が日用惣菜を始め、交際の饗走、祝儀の饗應等人手を煩はす事なく家庭に於て調理するを得しめんとする目的に出て、會員は一週間に一度つゝ集會し、教授を受け實地の練習をなすものにて、三ヶ月位の學せは學習し得らるゝ趣きなり。尚ほ成女學校、英和女學校等に於ても同樣講習しつゝありと聞く。

◎海外彙報

◉米國の女學生 米國にては小學校から大學に至る迄男女學校を同うし、大學の學科中教育學、語學、史學、醫學などに女學生の多きのみならず、社會學、政治學、法律學に至る迄專攻の女學生少なからず。米國の方針は日本の女子教育の方針と異にして良妻賢母を作るのみならず、一個の市民とし國民として知らざるべからさる權利義務の觀念を女子に授くるに在るを以て、米國の政事機關は獨り男子に依てのみ運用さるゝに非す、女子の勢力頗る重大なるものありと云ふ。議員の選擧權はなきも、政事上に於ける勢力は選擧權を有せざる女子にも非常に熾んにして、今現に選擧權要求問題も盛に主張せらるゝと云ふ。且つ米國女子の運動の盛んなるは實に驚くべきものにして、種々の室內運動、ゴルフ、ローンテニス等は最も長技とする處にて、狩獵をする婦人さへ多くあるよし。最も面白き話しは、或る大學にて新入學の女學生數十名が學校の一室に集會を催せる處にて、故參の男生徒が數名惡戲に來りしに、忽ち女學生の腕力家に捕へられ、散々にいためられたるよし。

◉米國の占領せんとせし日本島 去にし十四日倫敦發の電報によれば、米國政府はローズヒル大佐遠征軍をして布哇の南方五百浬餘の海面に於ける孤島を占領せんとせしに、同地には日本兵ありて、其司令官は同島が日本國の先占に屬するにより、立去るべき旨を命じ、且つ先占の確證を提出したりしかば、米國の軍隊も異議の申立て樣なく、立去りたるよしなるが、此島こそ數年前本邦人水谷新六氏等の發見に係る南鳥島の事にして、此島は既に明治三十一年七月十九日の官報を以て東京府の所屬となりしものなり。此島の重なる物產は捕鳥にして、棍棒を以て撲殺し得る程多く居るよし。海には鱶及び鯛等多數生育し、一ヶ年の收入額は一万五千圓餘あり。發見者たる水谷氏は今尚同地にありて、十五六名の日本人と共に捕獲に從事し居れりとぞ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

英語青年社編
頁數九六書入　定價金廿錢郵税二錢

英文 歐米學校生活

「英語青年」は頃者頻りに上梓せらるゝ華奢淫靡的の英文註釋出版物出て猶いまだ思想の確定せず無邪淸淨なる少年子弟を邪道に導くを見て奮慨の餘り今回特に海外より取り寄せたる泰西名家の學校小説十數冊中より華を選び萃を拔き以て「歐米學校生活」と題せる一小篇を編纂し今回出版せり其の内容の無害なるは論なく而も趣味の饒にして行文平易流暢なる文を以て居ながら歐米學校生徒日常の行動の狀況を知らしむ殊に詳註さへ添えたれば愛讀諸君が銷夏の好伴侶たるは勿論父兄敎師も是れを一讀せば泰西學校生徒の實情を知るを得べきなり

入校初日　勇氣ある新入生が惡生徒を逆機に遣つけたる壯快なる話
秘密結社　米國學校に行はれる秘密結社の奇々怪々なる入會式
動物虐待　學生の如何に愛畜の念に富みたるかを示す
女學校生徒　活潑氣鋭なる西洋の小女を吾が深窓のお孃樣に紹介す
先生の鞭撻　病床に呻吟せる先生に生徒が自分を鞭撻せしむる可憐の話
下級生　下級生の茶話會と同生と上級生の大衝突の記事
牛津大學　入校宣誓式と學生寄宿舍内の酒宴の狀況

發賣元　東京神田雉子町卅二(電本一四八)　岡崎屋書店

◉兒童新聞は日本唯一の敎育的兒童の讀物なり

子を持たる、御愛兒のために本紙を購ひたまへ讀ませて喜ばせる斗りでなく敎育上の參考となります

父兄諸君は

特色　◉言文がごく平易で、尋常科三年生以上のものであれば、よく讀み、よく解することができる◉野卑な記事は全くさけ、凡て敎育的に出來てゐる◉あらゆる科學をごくわかり安く、ごくおもしろく、かき兒童の智識を啓發する◉多く四號活字をつかつて兒童の衞生に意を用ひてある◉挿畫はすべて記事と連絡あるものを用ひ、ことに意匠に意を用ひて、兒童の趣味を養ふ◉學校敎育との連絡に意を用ひ學校で學びしことを自在に應用せしむる◉特に言葉づかひに意を用ひ國語統一の大機關を以て任じている。

毎月三回五ノ日發行
定價▲一部一錢五厘▲十部十五錢▲廿部三十錢▲三十部五十錢▲五十部七十五錢全國無遞送料(凡て前金)見本ハ往復端書ニテ照會アレ

發行所　東京本郷區本郷五丁目二十二番地　電話本局八百四番　兒童新聞社

婦人ふるちの藥

定價一貼五錢三貼十四錢五貼廿三錢七貼三十二錢

一此藥劑は婦人血の道一切の藥にして淸血を補ひ古血をめぐらすをかんようにして少しも脾胃(ひゐ)にさわるとなく血を下すにてはなく血をみちびき通ずる藥なり第一月々めぐり少き婦人はたッぷりと見るなり數年古血滯りある婦人は其のふるちのかたまり殘らずつうずるなり●○南まけづつう目まひによし○ふるちとゞこほり○ながち○しらち○手あしゝびれ○血しやく○ひゑるときさしこみいたむに功あり○むねこしいたみ○つぎむしによし○さんごあとはらのいたみはいかほどつよきいたみにても一ト包にて功あり○さんごわるちのとゞこほりに用ひて功あり○猶能書にくわしくしるす

本家製藥所　齒磨店　伊勢吉本店
東京市本所區東兩國横網町一丁目
(電話浪花二一七五八)

好學園女子寄宿舍

本園は家族的の寄宿舍にして園生をして都下各種の女學校に通學せしむるの傍ら園内にありては嚴肅なる監督の下に家政炊事の實習をなさしめ夜間は敎育倫理衞生家事に關する講話をなす本園の師父は嚴本明治女學校長成瀨日本女子大學校長松介石三輪田女學校長島田三郎の諸氏にして園長は千田時次郎氏なり

麴町區三番町六十八番地　好學園

少女界

◎第四號七月十一日發行(毎月一回十一日發行)

第一卷第四號目次

口繪
七夕(著色石版)……尾竹國觀畫
寫眞版 八葉
少女界
朝のつとめ……田村松魚
御伽噺
鼠の招待……信水
腹の文字……文學士 大谷繞石
樹蔭の唱歌……ちぬを
糸まき(新體詩)……ちかを
學術
文話……大和田建樹
狹穗姫……鈴木げん
七夕(新體詩)……大和田建樹
雜録
名家の幼時(二)……羽仁もと子
オリブの話……ふじ子
婦人の智惠……はやう生
お多福……なにやかや子
家庭夜話……渡邊曉星
海外新話……東健日子
餘興
一休和尚……たちはな
開所ゴッコ……淨松
おしゃべり孃……さくら
さみだれ雜談……蝶村
刺繍の下繪
紋の切り方……紋きり生
花むすび……蝶子
篏繪……鐸嶺
二葉俳句……世外
其他
通信
世事
文林

◎定價一冊付に金拾錢　郵税金壹錢五厘●七冊前金七拾六錢五厘●十四冊(郵税共)前金壹圓四拾參錢

發行所　東京本町　金港堂書籍株式會社

●水原産科婦人科病院

○所在神田區猿樂町十二番地(電話本局千八百〇九番)○外來診察午前中○入院往診隨時○同院には私立産婆學校の設置あり

◉誠實を旨とし愛國婦人新聞の特約販賣致候

業務擴張　書籍雜誌

何れの出版を不問　敏活勉強　取次販賣

東京神田表神保町　東京堂　電話本局二四八番

◉愛國婦人賣捌希望の向は申込有之度候

總裁小松大宮妃殿下副總裁鍋島侯爵夫人

推戴賛成員有栖川大妃殿下小松若宮妃殿下華頂宮妃殿下梨本宮妃殿下其他賛成貴婦人百餘名

新學年を開き會員を募集す

●本會は明治二十八年の創立にて既に學年を改むること三回講習終了者一萬六千餘人を出せり●講義を囑托せる講師は華族女學校女子高等師範學校日本女子大學校等の諸敎授及び其他博士學士等著名の專門家なり

大日本女學會

本會は國家開明の本源たる女子敎育の普及發達を圖らんが爲に女子必須の諸學科を掲げたる講義録を發行し家庭を離れ難き女子をして居ながら通信敎授を受けしめ且つ家庭を整ふる人の參考に資す仍て一般女子素養の程度に應じ高等簡易兩科を設くると左の如し

高等科(毎月一回廿五日女學講義發行二個年終了東脩四拾錢月謝四拾錢紙數菊判參百頁)

○倫理坪内雄藏○禮法佐方鎭子○敎育學安井哲子○兒童學高島平三郎○國文坂正臣○文法今泉定介○作文同○作歌大口鯛二○美辭學島村瀧太郎○漢文土屋弘○日本歴史大森金五郎○日本婦人列傳下田歌子○萬國歴史喜田貞吉○日本地理同○萬國地理同○地文脇水鐵五郎○理化同○算術上野清○博物津田梅子○生理衞生三宅秀○家事衞生同○小兒衞生三島通良○家事經濟後閑菊野○家庭敎育三輪田眞佐子○割烹石井泰次郎○裁縫渡邊辰五郎○習字坂正臣○繪畫武村千佐子○圖案同○美學島村瀧太郎○音樂東儀季治○挿花秀島成績○點茶松浦伯爵○園藝池田伴親○法制經濟岡戸謙介○民法鳩山和夫○社會學岸本能武太○御伽譚○詞藻○質問應答○雜録○雜報

簡易科(毎月一回五日女學講義發行二個年終了東脩貳拾錢月謝貳拾錢紙數同百五十頁)

○修身談本會編纂○禮法佐方鎭子○國文同○作文今泉定介○漢文土屋弘○日本歴史大森金五郎○日本地理喜田貞吉○算術上野伊志子○博物小此木忠七郎○理化脇水鐵五郎○生理衞生三宅秀○家事綱要後閑菊野○家庭敎育三輪田眞佐子○割烹石井泰次郎○裁縫渡邊辰五郎○習字坂正臣○圖書武村千佐子○史傳下田歌子○御伽譚○詞藻○質問應答○雜録○雜報

●會則は端書にて請求あり次第送呈す●東脩月謝を添へ申込あれば假入會を許し直に送本すべし

昨年十一月新學年開始　九卷迄發行　初卷より缺本なし

東京麴町下二番町三七(電話番町壹參參〇)　大日本女學會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎特約販賣店

◎東京堂　神田區表神保町三番地

◎東海堂　京橋區銀座四丁目

美術金製指環

定價金五圓以上餘は御好に應じ調製可申候

東京下谷池之端仲町
玉寶堂　飯塚伊兵衛
電話本局特九百六拾五番　一千二百四拾四番

正四位勳三等醫學博士　三宅秀先生著
大日本女學會發行　日本女子大學校教科書

家事衛生

總クロース綴ぢ金文字入り菊判二百四十頁定價金六十錢郵税金六錢

此書は文部省學校衛生顧問內務省中央衛生會委員元醫科大學部長なる三宅博士が文部省の囑托により講義されたるものなり書中に衣服食物住居育兒看病の五篇ありて我國一般の民度に應じ何れの家にても實行に差支なき懇切に說示されたり世に類なき家庭主宰者の寶典なり

田邊和氣子刀自遺稿

此書は故田邊女史の令名を不朽に傳へんとて大日本女學會より紀念の爲に發行せられたるなり書中に割烹點茶活花の三篇あり是等の科目を說きたる書世に多けれども之を讀みて實際に講習し得らるるものは此書のみなりとの世評あり是れ畢竟女史が京都高等女學校華族女學校東京女學館大日本女學會等に於て多年授業法に熟練せられたりし結果なりといふ

●總クロース綴ぢ金文字入り菊判五百四十頁定價金壹圓郵税金拾貳錢

大賣捌所　東京神田區一橋通町七　有斐閣

ヴワイヲレット製
壽美れおしろい
伊葉壺堂吉製

正價　大瓶二十錢　小瓶十二錢
定價　大瓶廿五錢　中瓶十五錢　小瓶十錢

西洋色白くなる洗劑
壽美れあらひ粉
東兩國　伊勢吉　壽美れ堂

定價綠藍紅彩蝶番ひ鑵詰六錢五厘ホックス入三錢袋入壹錢

藝文

次號（七月二十五日發行）
金色夜叉の合評

每月一回發行　一冊金貳拾錢　郵税金壹錢

國民新聞の評：…『藝文』卷第壹……『めざまし草』と『藝苑』との結合なれば、執筆者は前二誌に司はりしが多く、初刊としては成功に近し。表言して、「研究は其の尤も微細に入らんことを欲し、去就は必しも流俗と其步調を齊一にせんとを期せず。」而して探錄の限るに詩の體を以てすること、戲曲の歌舞伎に於ける、和歌の心の花、明星に於ける、中面の俳諧に於けるが如くならず。」と云ふ、以つて其主張を察するに足る。卷頭の鷗外氏が審美假象は、一般假象と審美假象との別を、強きと廣きとに置きたるもの上田敏氏のパッハ及ヘンデルは樂師としての二人を品騭して傍ら泰西の樂器を說く、ゴルキーの鷹の歌も譯されたり、クトゥ井ンの小品もあり、竹柏園の和歌は新奇をてらはずして却て風情多し。要するに文學藝術を論ずるよりは說きたるものにして當年の『めざまし草』の面影多し。やまひこと題したる小說は、しんたらうと署して譯はでも鷗外氏なるべく、久しきにして接す、優しき文字の中に過ぎ去りし昔の餘も忍ばれて、これのみは早く次回を見たしと思ふ。卒塔婆小町の合評は、蓋し從來に最も眞面目なる最も嚴正なる批評にして、唯だに其文辭と時代とを研究したるのみならず、槐南氏が之れと支那の戲曲の關係を明かにしたる、竹二氏が我が劇と小町の關係を詳叙したる、竹柏園氏が和歌との關係を說きたる、其他小町の史的研究、番膽戲曲との類似等、全頁の半以上を埋めたる故なきにあらざるべし。

發行所　東京日本橋區大傳馬町二丁目二十一番地　文友館

廣告取次
神田區千代田町二番地
博報堂
電話本局番號（一四四番　二五七一番

目
夏半ゑり帶揚類
新柄友僊絞り形縫

紹○絹緬○紋鹽瀨○染形○帶片側○組絞り兵兒帶○碁模樣け出し○別織染下メ○絽手綱○絞り美人
紐絓木綿縮眞岡小紋中形染意氣高尚
新染浴衣地　向○雀形ゑり治形まげ入

電話新橋二千二十七番
ゑり治
新橋竹川町十二番地本店
新橋詰帝國博品館內支店
園田商店

佛語速成科　英語速成科（每日午後四時ヨリ午後五時マテ一時間）
但土曜日曜並年中大祭日ヲ除ク
●授業料壹ヶ月金壹圓前納ノコト
右ハ三ヶ年卒業ノ目的ヲ以テ生徒各五十名ヲ限リ募集シ本年九月十一日ヨリ開始ス希望者ハ族籍宿所姓名生年月ヲ記載金五拾錢ヲ添ヘ來ル八月三十一日迄ニ申込マル可シ
但滿員ノ節ハ申込順序ニ依リ謝絕ス

神田區猿樂町八番地
私立女子高等佛英和學校

女子の友

七月十八日第百十九號發行

定價一部金十錢　全國無遞送料

號を重ねて益々清新、津々たる趣味滿紙に溢る。而して深東なる態度、縱橫なる活動、そは我女子の友が、女子社會より收め得たる一大勢力にあらずや。見よ、眞に是れ斯界の一明星！●口繪には故女子高等師範學校教授三輪義方先生肖像及筆蹟●茨城縣及松江市高等女學校卒業生●京都嵐山三軒茶屋●臺灣貴婦人●記事には女子教育意見。日本女子大學校長成瀨仁藏●婦人活動の種類。德島縣師範學校教授勝又郯次郎●女子と民法。在法科大學北本索山●獻立。赤堀峰翁●佛蘭西革命時代の婦人。勁林園主人●夜叉御前。ひでまろ●佛人ミッシェル氏の育兒心得の一斑。華族女學校教授淺岡一●地球の話。東京高等師範學校訓導川上瀧男●催馬樂講義。國語傳習所跡見女學校講師鈴木忠孝●小山作之助談。山根硯州●すうゐーとほーむ　川島白鷺●小犬を拾つ。鈴木秋子●禁の花。野口雨情●故鄉の墓　竹澤山名子●破痢隨筆　狹布廻舍主人●臺灣お伽噺。柴田常惠●米國より。コーチル大學三宅驥一●外十數項●其他誌友の投稿にかゝる小兒の行爲。短文寄書。兼題歌文（文學士尾上柴舟選）等
猶本號には懸賞小說募集の廣告あり

發行所　東京神田區鎌倉町　電話本局二七二一　東洋社

尾上柴三郎新作
吹雪の夜

コロタイプ著者肖像入○清方嵩伯意匠表紙○洋裝頗美本○正價金四拾錢　郵税六錢

本書は佛蘭西の演劇界に於て非常の大喝采を博したる名劇を著者が名案を以て脚色したるもの讀者一たび之を繙かば寢食を忘るゝの快味あるべし

東京市日本橋區本材木町一丁目十五番地
發兌元　文華堂（電話本局二千百六番）

●特許梅田竈は●石炭●コークス●木炭●雜木共焚得る舊式の竈に比れば五割餘の益有鍋鐵瓶等掛得る●煙戻らず家屋器具等燻ず

御試用三十日間は元價で買戻す

石炭を焚用ふれば八割餘の日益がある

●定價は鑄鐵製で
二升器　三圓五十錢
三升器　四圓六十錢
四升器　五圓三十錢
五升器　六圓五十錢
六升器　七圓八十錢
八升器　九圓也
一斗器　十二圓也

●說明書及び總銅製の價は無代で送る

發賣元　東京日本橋區通油町　梅田
名古屋市鐵砲町　岡谷商店

總裁小松大宮妃殿下　副總裁鍋島侯爵令夫人
大日本女學會發行　東京麴町區下二番町三七

をんな

第二卷第七號發兌

每月一回十五日發行　定價金拾五錢全國無遞送料

《卷首》蓮月尼の書像及び眞筆寫眞《論說》今日の日本婦人に特殊なる天職　五十嵐力●婚姻と法律　愛南學人《學藝》和書解題（十六夜日記）喜田貞吉●漢書解題（史記）丸井圭治郎●明治維新の原動力（五）池田黄昏●沙翁梗概　中島孤島●バクテリアの話　服部廣太郎●作文批評　今泉定介●作歌批評　大口鯛二《修身》學校の感化と家庭の習慣とに就て　嘉悅政子《齋家》割烹　石井泰次郎《世務》法制談（地方自治體）岡戶論介●經濟談（外國貿易）伊藤秋南●各地產業の實況（二十二）「松永鹽」●《譚艸》新家庭の一日（其二）稚松園●雲雀の雛（上）大塚素江●《詞藻》租稅の歌　縱の舍主人　正式歌會の歌（鍋島侯爵邸に於て）みやび會員●詞藻《雜錄》蓮月尼の書像及び遺物の寫眞に就て●朝鮮國釜山の氣候風俗習慣產業に就て　在韓國內海房壽子●圖案　武村千佐子●婦人論梗概《彙報》內外要報十數件

大賣捌　東京神田區表神保町三　東京堂

明治三十五年七月廿五日發行（每月十日廿五日二回）
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

發行兼印刷人　小峯俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　大日本女學會

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN